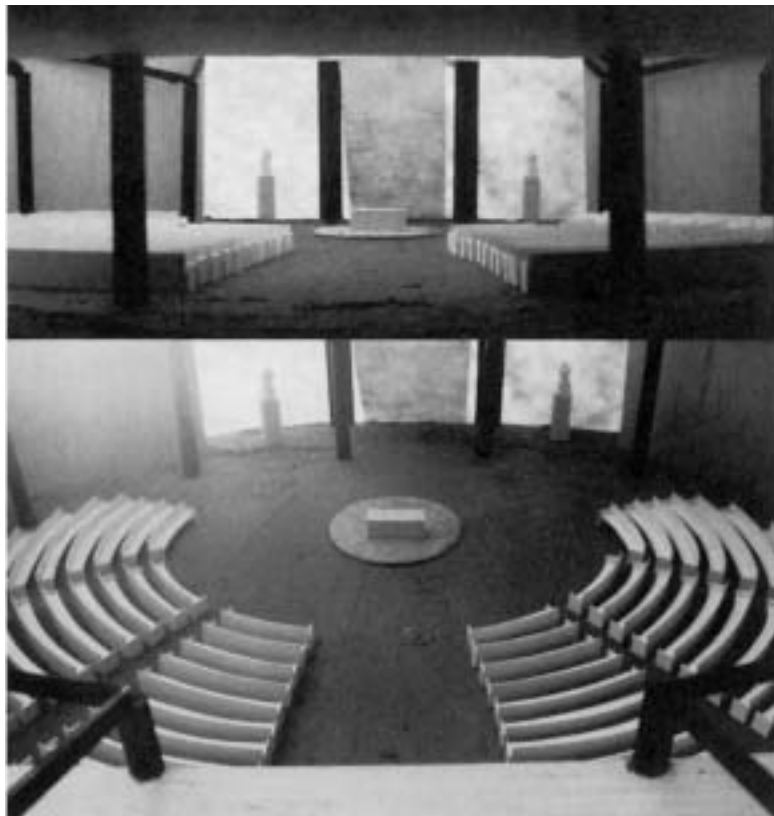


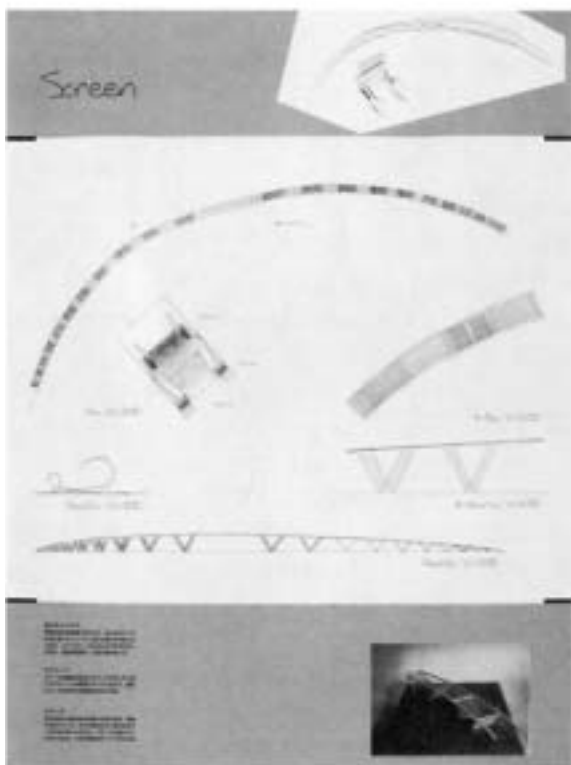


SYUNKEN

駿建

1997/4 Vol.25 No.1 新学期号
日本大学理工学部 建築学科
短期大学部 建設学科建築コース

Takatori Cathoric Church
土田 耕太郎
(平成8年度桜建賞・卒業設計部門)



知・活・遊・作 川原塚 彩子 (平成8年度桜建賞・卒業設計部門)



記憶というイメージ
—排除されたものの記憶—
大野 博史
(平成8年度奨励賞・卒業設計部門)

平成9年度 履修要項

建築学科

平成9年4月

1. 履修に関する一般事項

◆履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に配布された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の3年次編入生には、平成7年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更によっても改訂されることがある。平成5年度(1993)の改正によって、1～5年次生と6年次生以上では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているのに注意すること。

◆相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本

大学相互履修制度がスタートした。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能学科目、申請手続等はガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部等の講義をきいて知識を広めるとよい。ただし、キャンパスが離れているので、受講計画には十分注意して、事前に必ずクラス担任と相談すること。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度の窓口を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課の掲示による。

◆他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があつて、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しくは履修要覧参照。

◆受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められないので、届出・確認の手続きを必ず自分で行い、控えをとっておくこと。

◆教職課程の受講 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項〈教職課程〉を参照されたい。

平成9年度クラス担任一覧

学年	クラス担任	研究室No.・電話番号(内線)
1年	A 朝倉 徳雄	船・体育館研究室G 0474-69-5(298)
	◇ 河内山康子	◇・531 0474-69-5(235)
	B 亀山 征史	◇・531 0474-69-5(274)
	◇ 稲井田次郎	◇・543-C 0474-69-5(234)
	C 阿部 信博	◇・体育館研究室F 0474-69-5(464)
	◇ 諏沢 利明	◇・112 0474-69-5(297)
2年	岡村 武士	◇・大型構造物試験棟 0474-69-5(366)
	橋本 修	駿・946 03-3259-0(928)
		駿・583-A 03-3259-0(699)
	1組 吉田 燦	駿・453-B 03-3259-0(707)
	◇ 八藤後 猛	◇・965 03-3259-0(712)
	2組 根上 彰生	◇・577-B 03-3259-0(700)
3年	宇於崎勝也	◇・◇
	1組 白井 伸明	駿・431-B 03-3259-0(708)
	◇ 森泉 和人	◇・◇
	2組 石田 道孝	◇・965 03-3259-0(715)
	◇ 宇杉 和夫	◇・579 03-3259-0(711)
	1組 安達 俊夫	駿・433-A 03-3259-0(696)
4年	山田 雅一	◇・◇
	2組 本杉 省三	◇・578-B 03-3259-0(717)
	◇ 大川 三雄	◇・588-A 03-3259-0(697)
	5年次以上	渡辺 富雄
		◇・966 03-3259-0(714)

大学院理工学研究科建築学専攻(修士)

1年	関口 克明	駿・967-B 03-3259-0(719)
		船・622-A 0474-69-5(263)
2年	半貴 敏夫	駿・432-A 03-3259-0(713)

大学院理工学研究科不動産科学専攻(修士)

1年	根上 彰生	駿・577-B 03-3259-0(700)
2年	三橋 博巳	駿・581-B 03-3259-0(705)

■1年次生

○履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成9年度理工学部要覧に示された履修要項に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほか、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学

期初めに科目担当教員から配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（建築学コースと企画経営コース）選択、その他、具体的な受講届の書き方などについては、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。両コースの履修の詳細については別途配布する「**建築学科履修の手引**」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期に行われる。

○総合教育・外国語・基礎教育・専門教育科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、そしてこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に多数設置されている。なかでも基礎教育科目の微分積分学、線形代数学、基礎物理学Ⅰは専門教育の基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得すること。

外国語科目は、英語を中心に（第1外国語として）受講し、第2外国語としてドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

また、1年次の基礎教育科目（専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした科目）として、建築概論、図学および実習、基礎製図法の3科目、専門教育科目として、建築の計画と技術、電子演算Ⅰ、建築基礎実験が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であり、このうち建築概論、基礎製図法、建築基礎実験は必修科目であるから1年次で全ての単位を修得しておかなければならない。

1年次では**40単位を目標**に頑張ってほしい。ただしあまり欲張って、無計画に毎日5時限までビッシリ授業を組む必要はない。卒業までの4年間でどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

■2年次生

諸君のメインキャンパスは船橋校舎だが、建築設計製図Ⅰ、Ⅱと材料実験の時には（週1回）、駿河台校舎に通学してもらうことになる。大学の将来をかけた駿河台地区再開発プロジェクトが進行中で、すこし変則的なキャンパスの使い方になっており、諸君には不便なことが多いと思うが、大学の発展のために協力してもらいたい。

○専門教育科目の履修について

履修規定は昨年の入学時に配布した**平成8年度(1996)**

学部要覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、クラスを変更した受講はできない。

2年次設置の専門教育科目はすべて、これから建築を学んでゆく上の基礎的な科目であるから、時間割に組まれたこれらの科目は、単位数からみても全部履修することが望ましい。とくに、*印のついた11科目（企画経営コースは13科目）は「**選択必修科目**」である。「必修」と同様に考えて、よく勉強することが必要である。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「**建築学科履修の手引**」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の3/4にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できないので、時間をかけて受講計画を検討してもらいたい。なお、受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、微分方程式、数理統計学、材料化学A、応用地質学の4科目10単位である。卒業条件としては、1年次設置の建築概論、図学および実習、基礎製図法等を含めて合計14単位以上を修得すればよい。受講計画は、3、4年次の構造系専門科目の基礎として「**微分方程式**」を、環境工学、都市計画、建築計画などの計画系専門科目の基礎として「**数理統計学**」の受講をすすめる。

○建築学、企画経営コースの選択と登録について

諸君は2年次後期に「**建築学コース**」か「**企画経営コース**」を選択・登録し、以後はそれぞれのコースのカリキュラムに従って、各学科目の選択・受講の計画を立てることになる。コース選択の方法は、後日クラス担任および企画経営コース担当の教員から説明がある。なお、前期に設置されている「**不動産科学概論**」は企画経営コースの入門的な内容で、両コースの学生がそれぞれ専門教育科目の一つとして受講できるようになっている。なお、企画経営コースのB系列専門科目は、コース選択が決定した後期に受講登録できる。

○建築設計製図Ⅰ、Ⅱおよび材料実験の受講について

さきに述べたように、諸君は建築設計製図Ⅰ、Ⅱおよび材料実験の講義・実習を駿河台校舎で受ける。1組は

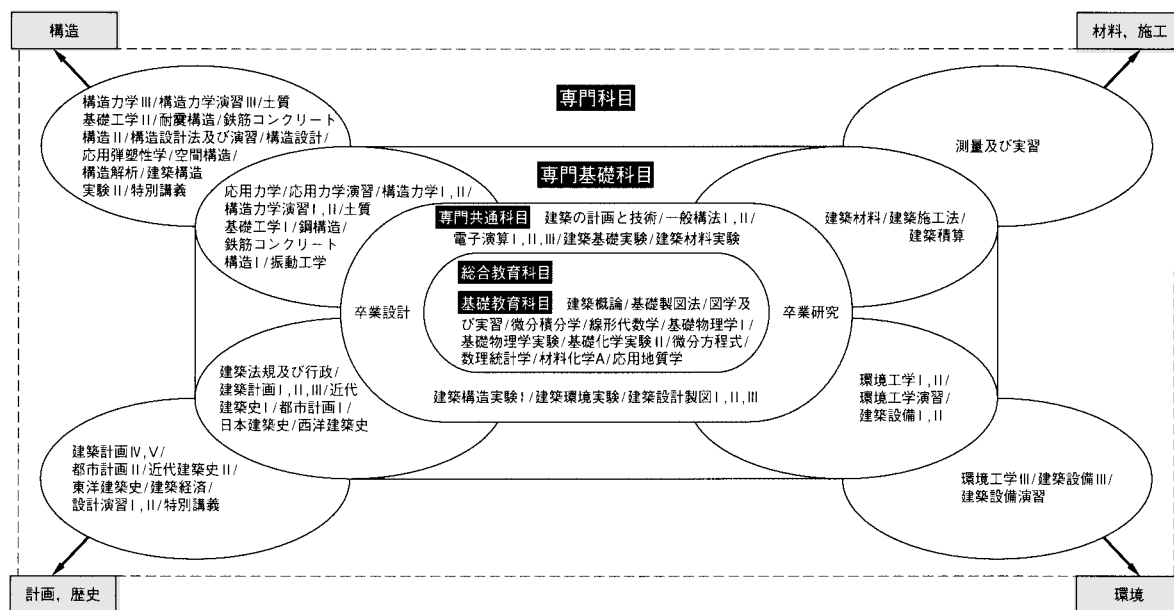


図1 建築学科(建築学コース)設置科目と専門分野

月曜日、2組は木曜日がこれに当てられる。製図も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料その他、各種の注意事項が、駿河台5号館5階エレベータホールに掲示されるので、毎週月、木曜日に駿河台校舎に来たら、必ず掲示を確認するとよい。

○3年次から授業校舎が駿河台校舎に変わることに関連した注意

2年次設置専門科目の単位を多数落とした場合は、3年次にまた船橋校舎に通わねばならなくなる。両校舎間の往復に時間がかかるので、2年次の単位を残すと、受講計画に非常に不利となることに注意してほしい。

■3年次生

○専門教育科目の受講について

2年次と同様に3年次(とくに前期)には、建築を学んでゆく上で基礎となる専門教育科目が多数設置されている。自分の専攻分野を決めるために各方面にわたる科目を3年次で一通り履修しておくとうい。2年次設置専門科目を受講する必要のある者は、船橋校舎の授業を受けなければならない。ただし、編入生が必要に応じて2年次設置の*印専門科目を受講できるように、一部の科目については駿河台校舎にも設置してあるので、時間割

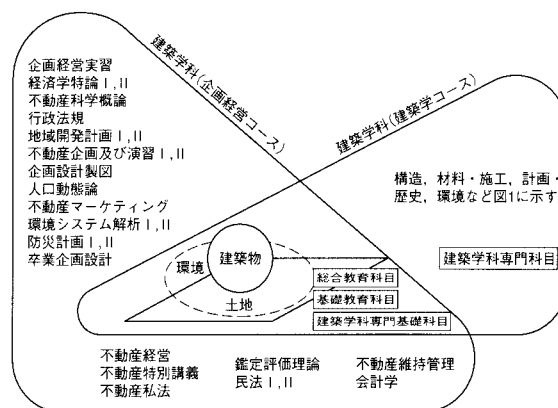


図2 企画経営コースとB系列専門科目

表をよく検討して時間の無駄のないように受講計画を立てること。この駿河台設置の2年次科目は編入生用で、その受講にはクラス担任の許可が要る。受講順序は、2年次設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から、本年度の受講計画が一番難しい。そこで、編入生に限りクラスを変更して受講することが認められるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談していただきたい。

建築学科の卒業条件としては、必修、選択必修科目を含めて専門教育科目84単位以上を修得しなければならない。また4年次設置の専門科目は、原則として諸君がそれぞれ自分の専攻分野を決めてから受講する選択科目だから、3年次終了までに専門教育科目の単位は少なくとも70単位以上修得しておくべきである。

とくに企画経営コースでは、3年次に基礎的かつ重要な専門科目が集中設置されているので、これらの単位は取りこぼしのないようにしなければならない。

○卒業研究着手条件について

諸君が来年度に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数136単位の3/4にあたる102単位以上を今年度中に修得しなければならない。これは、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、**卒業に必要な単位の合計が102以上なければならないので**充分注意してほしい。この卒業研究着手条件は厳守され、例外はない。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活をおくるためには、3年次終了までに修得する単位総数が、卒業条件として有効な単位だけで少なくとも102以上あることが望ましい。

○卒業設計・卒業企画設計（必修、2単位）の受講について

建築学コースの4年次生は、卒業研究のほかに必修科目として「卒業設計」を、企画経営コースの4年次生は「卒業企画設計」をそれぞれ履修することになる。ただし、この必修科目の受講は卒業研究着手者のみに許可される。一人の学生に二人の指導教官がついて、各学生の自主的なテーマ設定に基づいて一つの作品を仕上げるのがこの科目である。

■4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教官の選択から始まる。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2、3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広く知識を求めるのが理想である。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目16単位、選択必修科目15科目以上を含むA系列選択科目52単位以上の単位を含めて84単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目

表1 4年次設置の専門教育科目の分類

環境・計画系		構造・材料・施工系	
設計演習Ⅱ	(2)	建築構造実験Ⅱ	(1)
建築経済	(2)	構造設計	(2)
建築計画Ⅳ	(2)	測量及び実習	(2)
建築計画Ⅴ	(2)	特別講義(シェル構造)	(2)
都市計画Ⅱ	(2)	空間構造	(2)
環境工学Ⅲ	(2)	応用弾塑性学	(2)
建築設備Ⅲ	(2)	構造解析	(2)
建築設備演習	(1)	防災計画Ⅰ	(2)
東洋建築史	(2)		
特別講義(デザイン論)	(2)		
防災計画Ⅰ	(2)		
計 21単位		計 15単位	

(注) 特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する。測量及び実習、空間構造は計画系の学生にも必要な科目である。

表2 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験 (必修・1単位) (本岡、中山)	構造部材(岡村) 構造強度(斎藤(公)、黒木) 振動(石丸、半貴、白井、新谷、森泉) 風洞(三橋、下村、広部) 測定法(本岡、中山)
建築材料実験 (必修・1単位) (三橋)	セメント・コンクリート実験(清水、横山、中山、依田、平賀) 鋼材実験(平山、半貴、三橋、小久保、斉藤(俊))
建築環境実験 (必修・1単位) (木村、井上)	騒音実験(木村、井上、荘、橋本) 設備実験(吉田、八町、蜂巣) 光実験(関口、橋本)
建築構造実験Ⅰ (必修・1単位) (斎藤(公)、岡田)	光弾性実験(本岡、戸塚、中山) 構造安定実験(斎藤(公)、岡村、岡田)
建築構造実験Ⅱ (選択・1単位) (榎並、安達)	構造実験(白井、清水(泰)、森泉) 土質実験(榎並、安達、山田)

(注) 各実験項目についての問い合わせは、各担当者の所属する研究室へ、実験項目の可否その他、総合的な質疑は各担当責任者に問い合わせる。

の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業設計2単位、計6単位があるから、4年次で8単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件136単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が9単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、 $8 + 9 = 17$ 単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目16単位、選択必修科目の中からA系列15科目以上、B系列11科目以上の単位を含めて84単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマ

とも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

■建築実験について

1～4年次まで設置されている建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学級の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表2に示す。

■建築設計製図の受講について

建築設計製図はⅠ～Ⅲまでが必修で、3年次後期の設計演習Ⅰと4年次前期の設計演習Ⅱは選択である。設計演習Ⅰ、Ⅱは、将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題のほかに、インテリアやCADに興味をもつ人を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

ただし、建築学科を卒業後、実務経験2か年を経て受験することのできる1級建築士資格試験の設計製図の課題内容は、大学で設計製図Ⅲまでを修得していれば充分対応できる。

- 建築設計製図の各科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。また基礎製図法を修得しないで設計製図Ⅰ、Ⅱを、設計製図Ⅰ、Ⅱを修得しないで設計製図Ⅲと設計演習Ⅰを、そして設計製図Ⅲと設計演習Ⅰを修得しないで設計演習Ⅱを受講することはできない。すなわち設計製図は、設置順に段階的に単位を修得しなければならないのである。
- その他、設計製図の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う設計製図ガイダンスの際、配布するパンフレット「建築設計製図の課題及び案内」に記載してある。
- 設計製図関係科目に関する一般的な連絡は、5号館5階エレベータホールに掲示する。
- 本年度の製図関係科目の事務担当は、表3のとおりである。

●卒業研究について(各コース共通)

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおりである。

卒業に必要な科目区分別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区分別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科

表3 平成9年度 建築設計製図担当者一覧

学年	科目	1組	2組
1	図学及び実習(選択)	(水) *柳田 武 吉野 泰子 〈佐藤 直樹〉	(金) *石田 道孝 宇杉 和夫 〈八藤後 猛〉
	基礎製図法(必修)	(水) *柳田 武 山崎 敬三 本杉 省三 田島 夏樹 田中 雅美 〈佐藤 直樹〉	(金) *石田 道孝 白江 龍三 宇杉 和夫 小松 清路 小石川正男 〈八藤後 猛〉
2	建築設計製図Ⅰ(必修)	(月) *野村 歆 田中 雅美 若色 峰郎 小松 清路 小石川正男 田島 夏樹 染谷 正弘 〈佐藤 慎也〉	(木) *宇杉 和夫 高 俊民 本杉 省三 山崎 敬三 石田 道孝 川口とし子 白江 龍三 〈重枝 豊〉
	建築設計製図Ⅱ(必修)	(月) *若色 峰郎 白井 勇 野村 歆 小川 守之 片桐 正夫 曾我部昌史 染谷 正弘 〈佐藤 慎也〉	(木) *本杉 省三 野沢 正光 高宮 真介 吉井 信幸 宇杉 和夫 橋本 功 飯塚 章 〈重枝 豊〉
3	建築設計製図Ⅲ(必修)	(水) *若色 峰郎 橋本 功 関沢 勝一 野沢 正光 吉田 博 飯田 善彦 今村 雅樹 坂 茂 〈佐藤 慎也〉	(金) *高宮 真介 西野 善介 本杉 省三 横河 健 小川 守之 飯塚 章 アストリッドクライ ン 曾我部昌史 〈大川 三雄〉
	設計演習Ⅰ(選択)	(水) *関沢 勝一 横河 健 若色 峰郎 川口とし子 吉田 博 松岡 辰郎 〈渡辺 富雄〉	(金) *高宮 真介 若松 久男 柳田 武 西野 善介 アストリッドクライ ン 今村 雅樹 〈大川 三雄〉
4	設計演習Ⅱ(選択)	(火) *関沢 勝一 *根上 彰生 高宮 真介 吉井 信幸 高 俊民 白井 勇 〈渡辺富雄〉 〈宇於崎勝也〉	*柳田 武 *片桐 正夫 松岡 辰郎

*事務担当 ()内 事務担当助手

目区分ごとに、総合教育科目16単位、外国語科目10単位(英語6単位以上)、保健体育科目3単位、基礎教育科目14単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入しない。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成9年1月に配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

3年次までは設計製図、実験実習を除けば講義で講義を聴講する、いわば一方通行の授業が多かったと思うが、卒業研究は先生や先輩の大学院生と密接な人間関係をもつ機会であり、一生の付き合いの第一歩ともなる最も意義ある科目である。

卒業研究テーマの選択は必ずしも将来の進路から決める必要はなく、むしろ大学生活最後の1か年をいかに有意義に締めくくるとの観点から選択すべきであろう。

卒業研究について

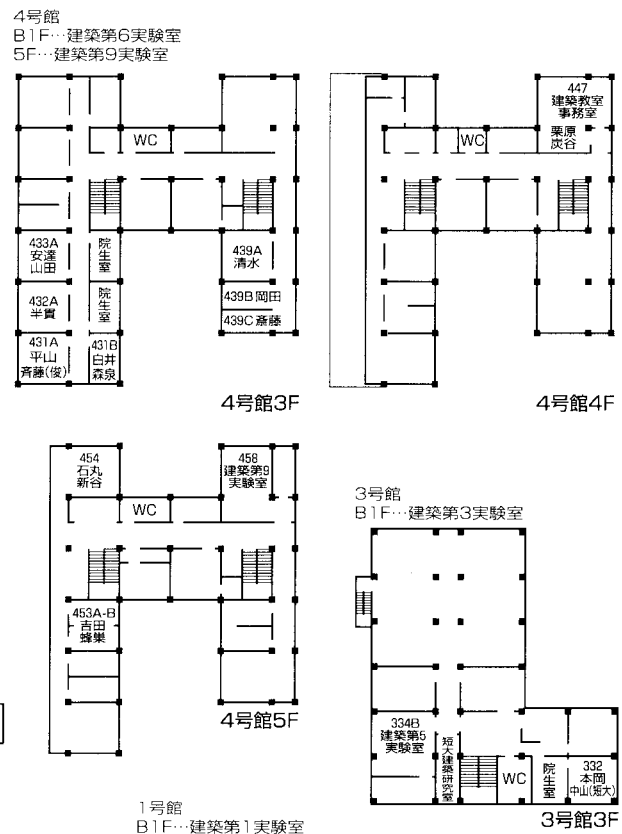
大学生生活の締めくくりとして、卒業研究を通じて一人の先生と1年間ひとつのテーマで勉強することは、最も意義あるもののひとつである。大学に入って1年、2年、3年、と多くの先生方の講義を聴くことによって、それぞれの先生のものの考え方を学ぶことは、もちろん、視野を広める上に有益なことであるが、大学生活最後の仕上げの時期に膝を交えて先生と話し合うことのできる卒業研究は、勉強すること以外に人生に関する諸問題も話し合

える機会として、学生諸君にとって大切な場であると思う。したがって、建築教室としては、諸君の教育の仕上げの場として、卒業研究を最も大切な科目と考えていることを、まず念頭に置いてもらいたい。

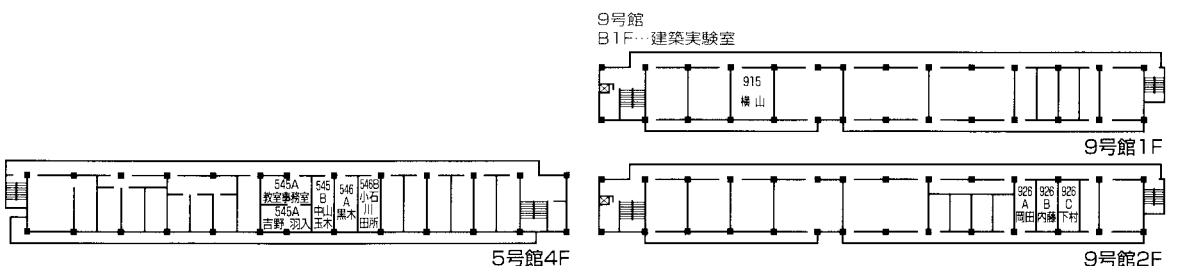
卒業研究着手の心がまえや手続きについてはクラス担任から詳しい説明があるが、卒業研究についての先生には、勉強のことはもちろん、就職の問題、さらにまた将来は結婚の問題といろいろとお世話になるものであり、学生諸君はこの卒業研究を完成させる過程を経て、ほんとうに大学生活を有意義に終わることができるものと考えている。

建築教室関連マップ

〈駿河台校舎〉



〈船橋校舎〉



短期大学部建築コース

平成9年4月

■はじめに

短期大学部における卒業に必要な最低単位の取り方の概要を示すと下表ようになる。

すなわち2年間で、この表に示すように一般教育・外国語・保健体育科目から17単位、専門科目から40単位、合わせて62単位以上を修得しなければ卒業できない。これは短期大学の教育理念が、完成教育を目指したもので、諸君の勉強が一方に偏らず、広く建築全般にわたって学修できるようにしたものである。次に、以上のことがらをもう少し詳しく説明しよう。

卒業に必要な最低単位一覧

一般教育科目 (人文、社会、自然分野から)	(単位) 10
外国語	4
保健体育科目(必修2科目)	3
小 計	17
専門教育科目 必修科目(6科目)	11
選択必修科目	29
小 計	40
教養・専門教育科目のうちから	5
合 計	62

短期大学部建設学科建築コース(船橋校舎)

学年	クラス担任	研究室No.・電話番号(内線)
1年	佐藤 勝	船・539 0474-69-5(436)
	岡田 満	〃・926-A 0474-69-5(487)
	中山 優	〃・915 0474-69-5(566)
2年	小石川正男	船・546-B 0474-69-5(443)
	内藤 正昭	〃・926-B 0474-69-5(433)
	吉野 泰子	〃・545-A 0474-69-5(479)

■一般教育科目・外国語科目・保健体育科目

右上の表に示すように一般教育科目・外国語科目・保健体育科目の3つのグループに分けられる。それぞれの科目について説明すると、次のようになる。まず、一般教育科目は3つの分野に分けられる。

ここで卒業に必要な条件は、人文・社会分野・自然分野から、計10単位以上を修得しなければならない。

次に、外国語科目は4科目・4単位以上、保健体育科目は講義・実技を含む2科目・3単位以上をそれぞれ修得し、合わせて17単位以上を修得しなければならない。

	科 目	単位	履修方法
一般教育科目	哲学Ⅰ	2	このうちから10単位以上履修しなければならない。日本の文化、日本の社会は、留学生のみ履修できる。
	哲学Ⅱ	2	
	倫理学Ⅰ	2	
	倫理学Ⅱ	2	
	国語国文Ⅰ	2	
	国語国文Ⅱ	2	
	日本の文化	4	
	法学Ⅰ	2	
	法学Ⅱ	2	
	経済学Ⅰ	2	
	経済学Ⅱ	2	
	社会学Ⅰ	2	
	社会学Ⅱ	2	
	日本の社会	4	
	微分積分学Ⅰ	2	
	微分積分学Ⅱ	2	
	線形代数学Ⅰ	2	
	線形代数学Ⅱ	2	
	物理学Ⅰ	2	
	物理学Ⅱ	2	
	物理実験Ⅰ	1	
	物理実験Ⅱ	1	
外国語科目	化学Ⅰ	2	このうちから4単位以上履修しなければならない。
	化学Ⅱ	2	
	化学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅱ	1	
	教養ゼミナール	2	
	総合講座	2	
	英語講読Ⅰ	1	
	英語講読Ⅱ	1	
	英語表現法Ⅰ	1	
	英語表現法Ⅱ	1	
	英語講読Ⅲ	1	
	英語講読Ⅳ	1	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅳ	1	
保健体育	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	フランス語Ⅳ	1	
保健体育	体育学概論(必修)	2	
	体育実技Ⅰ(必修)	1	
	体育実技Ⅱ	1	

■専門科目

専門科目は、必修科目6科目・11単位と、選択必修科目41科目・76単位に大別される。ここで卒業に必要な条件は、必修科目11単位、選択必修科目〔A〕、〔B〕、〔C〕、〔D〕の各系列から、それぞれにきめられた条件を満たし、合わせて29単位以上を修得しなければならない。これは建築を学ぶ者として、知識を広めるために計画系・構造系の教科を問わず、それぞれの関連性を考

え、できるだけ広い範囲にわたって各教科を履修できるようにしたものである。

専門科目として設置されている科目を以下に示す。

必修科目	単位数
建築実験Ⅰ	〔1〕 1年次
建築実験Ⅱ	〔2〕 2年次
図学及び製図法	〔2〕
建築設計製図Ⅰ	〔2〕
建築設計製図Ⅱ	〔2〕
建築設計製図Ⅲ	〔2〕

選択必修科目

	1年次	単位	2年次	単位	履修方法
A	情報処理Ⅰ	2	微分方程式Ⅰ	2	このうちから4単位以上履修しなければならない。
			微分方程式Ⅱ	2	
			統計学Ⅰ	2	
			統計学Ⅱ	2	
			情報処理Ⅱ	2	
			特別講義	2	
B	応用力学Ⅰ	2	構造力学Ⅲ	2	このうちから10単位以上履修しなければならない。
	応用力学Ⅱ	2	構造力学演習Ⅲ	1	
	応用力学演習Ⅰ	1	構造解析	2	
	応用力学演習Ⅱ	1	構造解析演習	1	
	構造力学Ⅰ	2	鉄筋コンクリート構造	2	
	構造力学Ⅱ	2	鋼構造	2	
	構造力学演習Ⅰ	1	構造設計法	2	
	構造力学演習Ⅱ	1	構造設計演習	1	
C	建築計画Ⅰ	2	環境工学Ⅰ	2	このうちから8単位以上履修しなければならない。
	建築計画Ⅱ	2	環境工学Ⅱ	2	
	建築計画Ⅲ	2	建築法規	2	
			都市計画概論	2	
			建築史Ⅰ	2	
			建築史Ⅱ	2	
			建築設備概論	2	
			空間デザイン	2	
D	一般構法	2	建築施工法Ⅰ	2	このうちから4単位以上履修しなければならない。
	建築材料Ⅰ	2	建築施工法Ⅱ	2	
	建築材料Ⅱ	2	測量及び実習	3	
	合計	26	合計	50	

次に必修科目と選択科目の取り方について解説しよう。

■必修科目について

設置科目はすべての学生が受講し、その単位を修得しなければならない。なお、原則として図学及び製図法および建築設計製図Ⅰおよび建築実験Ⅰは1年次において、建築設計製図Ⅱ・Ⅲおよび建築実験Ⅱは2年次において受講する。

1. 図学及び製図法・建築設計製図ⅠおよびⅡ・Ⅲ

設計製図は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるから、長時間の実技的な修練が必要である。そのためには、各課題を所定の期間内に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。

受講票は、設計製図専用の受講票を使用するが、これはガイダンスの際に配布するので、所要事項を記入し、写真を貼付して提出すること。

各課題については、それぞれの担当師が中間指導を行う。中間指導は出題された課題について平面、断面などスケッチを提出して指導を受ける。中間指導日時と担当師は課題別に発表される。

なお、病気、事故などで作品を提出できない場合は、提出日の前後1週間以内に理由書および診断書などを事務担当に提出し、その指示を受けること。また、図学及び製図法・建築設計製図Ⅰを修得しないで建築設計製図Ⅱ・Ⅲを履修することはできない。

2. 建築実験ⅠおよびⅡ

実験の内容は次のごとくである。

建築実験Ⅰ	建築実験Ⅱ
(i) 構造強度実験	(i) セメント・コンクリート実験
(ii) 光の実験	(ii) 振動実験
(iii) 鋼材実験	(iii) 風洞実験
(iv) 梁のたわみ実験	(iv) 音の実験

学年始めに各担当師より詳細な説明が行われる。実験は指定の班別によって重複しないように実施されるので、スケジュールに従って受講しなければならない。

合格・不合格は出席・レポートの考査により各実験別に採点し、全実験の総合的な評価によって判定される。

なお、レポート受理の際に受領証を渡すので、可否が判定されるまで保管すること。

やむを得ない理由等により所定の班および期日に受講できない場合は、事前もしくは直後に各実験担当師へすみやかに申し出て指示を受けること。

■選択必修科目について

設置教科は〔A〕～〔D〕の四つの系列に分けられ、それぞれ履修方法が決められている。これは履修科目が一方に偏らず広い分野での履修を望みたいからである。卒業の条件はこの系列別に必要単位を修得し、合わせて29単位以上を修得しなければならない。

なお、これは設置教科（単位）のうち、約半数にすぎないが、先に専門科目の履修の項で述べたとおり、できるだけ多くの教科を履修することが望ましい。

また、応用力学・構造力学など、演習の設置されている科目は、講義とともに演習も受講しなければならない。

■その他自由選択科目について

設置科目（一般教育科目・外国語科目・保健体育科目・専門科目）のうちから、自由に5単位以上を修得しなければならない。

専門科目使用教科書並びに参考書

建築学科

(教科書は太字, その他は主要参考書)

学科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定 価	取 扱 所
建築の計画と技術	建築の構造とデザイン	斎藤公男 (監訳)	丸善	2,884	書店
建築実験共通	建築実験法		彰国社	4,980	建築研究室 (船915)
応用力学	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,730	安達研究室 (433-A)
	材料力学(上・中)	チモシェンコ原著 訳・鶴戸口英善, 他 2 名	東京図書	(上)2,500	書店
	材料力学(上・下)	訳・倉西正嗣, 他 2 名	裳華房	(中)2,500 (上)3,500	書店 書店
	ELEMENTS OF STRENGTH OF MATERIALS	S. TIMOSHENKO, D. H. YOUNG	丸善	(下)3,300 2,000	書店 書店
応用力学演習	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,060	安達研究室 (433-A)
構造力学Ⅰ (甲, 乙)	建築構造力学	齋藤謙次	理工図書	3,605	書店
構造力学Ⅱ, Ⅲ	建築構造力学	齋藤謙次	理工図書	3,605	書店
	骨組構造の解析	佐藤稔雄, 中村恒善	彰国社	5,356	書店
	耐震構造の設計	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	5,000	日本建築学会, 書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 (監訳)	丸善	2,884	書店
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築構造力学演習	齋藤謙次	理工図書	2,060	書店
鉄筋コンクリート構造Ⅰ, Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,750	本岡研究室 (332)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 実	共立出版	2,781	書店
	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,502	書店
	鋼構造設計演習	鋼材倶楽部	技報堂	4,429	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会編	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
土質基礎工学Ⅰ, Ⅱ	構造用教材 (改訂新版)	日本建築学会	日本建築学会	1,900	日本建築学会, 書店
	建築基礎構造設計指針	日本建築学会	日本建築学会	5,974	日本建築学会, 書店
	テルツァギ・ベック土質力学(基礎編)	星 埜 和, 加藤 渉, 三木五三郎, 榎並 昭 (共訳)	丸善	2,575	安達研究室 (433-A)
	テルツァギ・ベック土質力学(応用編)	星 埜 和, 加藤 渉, 三木五三郎, 榎並 昭 (共訳)	丸善	2,700	書店
構造設計法および演習 構造設計	建築構造設計 (全訂第 3 版)	佐藤稔雄編	理工図書	5,150	書店
	建築物荷重指針・同解説	日本建築学会	日本建築学会	7,880	日本建築学会, 書店
	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	日本建築学会	日本建築学会	5,974	日本建築学会, 書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会	日本建築学会	5,768	日本建築学会, 書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	3,296	日本建築学会, 書店
空間構造	建築の絵本 建築構造のしくみ 力の流れとかたち	川口 衛他	彰国社	2,400	書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 (監訳)	丸善	2,884	書店
	木による空間構造のアプローチ TIMBER COMPANION	今川憲英・岡田 章	建築技術	4,800	書店
	柱のない空間 —スポーツ・イベント・展示ホール—	日本建築学会	彰国社	1,900	斎藤研究室 (439-C)

学科目名	書 名	編著書名・訳者名など	発行所名	定 価	取 扱 所
特別講義 シェル構造	テンソルとシェル理論 ベクトルとシェル構造	西村敏雄	彰国社	7,004	西村研究室(331)
		西村敏雄	彰国社	6,850	西村研究室(331)
構造解析	建築技術者のための 有限要素法入門	佐藤稔雄編著	理工図書	2,884	書店
振動工学	構造物の動的解析	石丸辰治	石丸研究室	2,000	石丸研究室(454)
耐震構造	構造物の動的解析 Part II	石丸辰治	石丸研究室	1,500	石丸研究室(454)
建築材料(甲・乙)	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,854	日本建築学会, 書店
建築施工法, 建築積算	施工・見積	加藤賢三他 2	彰国社	4,980	半貫研究室(432-A)
一般構法Ⅰ	木質構造建築読本 構造用教材	杉山英男	井上書院	3,800	書店
		日本建築学会	日本建築学会	1,854	書店
一般構法Ⅱ	建築構法 建築の構造システム	内田祥哉	市ヶ谷出版	2,800	書店
		平山善吉他 4	理工図書	4,800	書店
図学および実習	建築図学概論 新建築設計ノート パースの描き方	若色峰郎, 柳田 武他	彰国社	2,240	8号館製図準備室
		西日本工高建築連盟編	彰国社	1,854	書店
基礎製図法	建築デザインの製図法 から簡単な設計まで 新訂建築製図	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	書店
		日本建築学会	彰国社	1,648	書店
建築概論	建築通論 建築への誘い	建築通論編集委員会編	彰国社	3,605	岡村研究室 (大型構造物試験棟)
		近江 栄, 宇野英隆編	朝倉書店	2,600	書店
建築計画Ⅰ	建築計画ノート	宮川英二	理工図書	2,884	書店
建築計画Ⅱ	建築計画	宮川英二, 関沢勝一他	理工図書	3,260	書店
建築計画Ⅲ	設計方法Ⅳ —設計方法論 設計方法Ⅴ —設計方法と設計主体 デザインの鍵 設計方法論 建築・都市計画のた めの空間学事典	日本建築学会, 建築計画委 員会, 設計方法小委員会	彰国社	1,957	書店
		日本建築学会, 建築計画委 員会, 設計方法小委員会	彰国社	2,400	書店
		池辺 陽	丸善	2,200	書店
		太田利彦	丸善	2,900	書店
		日本建築学会編	井上書院	3,605	書店
建築計画Ⅳ	日本住宅の空間学 新建築学大系・23 建築計画	宇杉和夫	理工図書	未定	書店
		原 広司, 鈴木成文他	彰国社	5,562	
建築計画Ⅴ	障害者の生活と福祉 高齢者・障害者の住 まいの改造とくふう 建築設計資料14 心身障害者福祉施設 設計計画パンフレット 「ハンディキャッ プ者配慮の設計資料」	野村 歆他	光生館	2,200	書店
		野村 歆	保健同人社	2,730	書店
		野村 歆	建築資料研究 社	3,500	書店
		日本建築学会	彰国社	2,266	書店

学科目名	書 名	編著社名・訳者名など	発行所名	定 価	取 扱 所
都市計画Ⅰ	都市計画第3版	日 笠 端	共立出版	3,811	書店
	日本近代都市計画の百年	石田頼房	自治体研究社	2,500	書店
	「都市計画」の誕生	渡辺俊一	柏書房	3,600	書店
都市計画Ⅱ	アーバン・デザイン	P.D.スプライレゲン 波多江健郎(訳)	日本サムシング	4,800	書店
	都市の景観	G.カレン 北原理雄(訳)	鹿島出版会 (SD選書)	1,545	書店
	実存・空間・建築	C.N＝シュルツ 加藤邦男(訳)	鹿島出版会 (SD選書)	1,854	書店
	新しい都市デザイン	J.バーネット 倉田直道・洋子(共訳)	集文社	3,605	書店
	都市のイメージ	K.リンチ、丹下健三 富田玲子(訳)	岩波書店	2,300	書店
建築法規および行政 短大建築法規	建築法規	関田一郎、野村 歓	理工図書	3,760	野村研究室(965)
	基本建築関係法令集	建設省住宅局建築指導課	霞ヶ関出版	2,500	書店
	建築法規用教材	日本建築学会(建築法制 委員会)編	日本建築学会	1,900	書店
日本建築史	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	建築史研究室(587-A.B)
	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社	2,884	書店
西洋建築史	西洋建築様式史図集	太田静六	理工図書	2,300	建築史研究室(587-A.B)
	西洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,575	建築史研究室(587-A.B)
近代建築史	近代建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	南洋堂書店
	近代建築史概説	村松貞治郎、山口 広、 山本学治編	彰国社	2,400	書店
東洋建築史	東洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	3,193	建築史研究室(587-A.B)
環境工学Ⅰ	建築音響と騒音防止 計画	木村 翔	彰国社	3,420	木村研究室(583-A)
	建築の音環境設計 (日本建築学会設計 計画パンフレット4)	日本建築学会編	彰国社	2,039	書店
環境工学Ⅱ	建築環境工学用教材 (環境編)	日本建築学会	日本建築学会	1,854	書店
	建築気候	斎藤平蔵	共立出版	2,900	書店
環境工学Ⅲ	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会編	技報堂出版	4,500	木村研究室(583-A)
	建物の遮音設計資料	日本建築学会編	技報堂出版	4,800	書店
建築設備Ⅰ、Ⅱ	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	3,914	吉田研究室(453)
	環境工学用教材 (設備編)	日本建築学会編	日本建築学会	1,854	吉田研究室(453)
	空気調和設備の実務 の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,350	書店
	衛生・給排水設備の 実務の知識	空気調和・衛生工学会編	オーム社	4,330	書店
	暮らしの技術としての 建築設備入門	吉田あきら他	理工図書	3,950	書店

専門科目使用教科書並びに参考書

短期大学部建築コース

(教科書は太字、その他は主要参考書)

学科目名	書 名	編著者名・訳者名など	発行所名	定 価	取 扱 所
建築実験	建築実験法		彰国社	4,980	内藤研究室(926-B)
建築設計製図Ⅰ	建築デザインの製図法から簡単な設計まで	武者英二, 永瀬克己	彰国社	2,369	小石川研究室(546-B)
	建築設計製図	日本建築学会	彰国社	1,000	書店
	建築図面の表現	建築計画設計研究会編	技報堂出版	3,500	書店
図学及び製図法	建築図学概論	近江 栄, 他 5 名	彰国社	2,240	小石川研究室(546-B)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,730	ガイダンス時に指示
	建築応用力学	小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,266	
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,060	ガイダンス時に指示
	応用力学演習問題解析法	西村敏雄	理工図書	4,800	
構造力学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築構造力学	齋藤謙次	理工図書	3,605	内藤研究室(926-B)
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ	建築構造力学演習	齋藤謙次	理工図書	2,060	内藤研究室(926-B)
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,750	中山研究室(915)
鋼構造	鉄骨の設計	若林 實	共立出版	2,781	黒木研究室(546-A)
構造設計演習	わかりやすい鉄筋コンクリート構造の設計	藤田 幹, 内藤正昭	理工図書	3,440	内藤研究室(926-B)
	鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説	日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
土質力学	建築基礎構造設計指針	日本建築学会編	日本建築学会	5,974	書店
建築計画Ⅰ	建築計画 1	岡田正光他著	鹿島出版会	3,500	小石川研究室(546-B)
建築計画Ⅱ	日本住宅の空間学	宇杉和夫著	理工図書	未定	小石川研究室(546-B)
建築計画Ⅲ	建築計画 2	岡田正光他著	鹿島出版会	4,200	小石川研究室(546-B)
環境工学Ⅰ, Ⅱ	建築環境工学用教材・環境編	日本建築学会編	日本建築学会	1,854	吉野研究室(545-A)
	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,420	
	建築気候	斎藤平蔵	共立出版	3,090	
建築法規	建築基準法法令集	オーム社編	オーム社	1,000	書店
都市計画概論	都市計画	日笠 端	共立出版	3,500	横内研究室(237-B)
建築史Ⅰ	日本建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	915室
建築史Ⅱ	西洋建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,575	書店
	近代建築史図集	日本建築学会編	彰国社	2,240	書店
建築設備概論	建築設備概論	吉田 燦	彰国社	3,914	545-A 室
	環境工学用教材(設備編)	日本建築学会編	日本建築学会	1,854	
空間デザイン	建築構造のしくみ	川口 衛	彰国社	2,400	黒木研究室(546-A)
一般構法	建築の構造システム	平山善吉, 他 4 名	理工図書	4,800	内藤研究室(926-B)
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料科学	笠井芳夫, 他 2 名	理工図書	3,811	横山研究室(915)
	建築材料用教材	日本建築学会編	丸善	1,900	
建築施工法Ⅰ, Ⅱ	建築生産施工学	毛見虎雄, 他 2 名	理工図書	未定(改訂中)	横山研究室(915)
情報処理Ⅰ, Ⅱ	FORTRAN 77 プログラミング入門からグラフィックスまで	川崎, 他共著	培風館	1,980	書店

5年前の昔、 25年前の今

高 俊民



5年前に縁あって日大での非常勤講師を務めることになったが、それも今年で6年間の任務が終わろうとしている。そして、今年6月には母校の主催で同窓会が行われるが、それは私が建築家を目指し、世の中へ出て25年が経ったことをも意味する。

お茶の水の校舎に私が行くことになった5年前に遡ると、日本においての政治および経済システムが崩壊しつつあり、さらに未来に対しての確信や希望をも消散し始めていたが、まだ建築活動が盛んであった数年間の余韻が残っていた頃でもあった。あれから出口が見えない低迷することの多い時が流れ、自己本位な視点で物事を理解し対処してきた5年前の過去がとても遠い昔のように感じる。

その反面、卒業後25年という区切りの年に重なるためなのだろうか、最近私が受け持つ学生（4年生）たちと話をすると、あたかも大学院生当時の自分に問い掛

けているような気になる。これから大学を卒業してアーキテクトたるものになる第一歩を踏み出す時の状況を考えると、時代の変化はさて置き、25年前の私自身が抱いた期待感と心情が現在に蘇る。それは決して5年前と同様の遠い過去のことではなく、長いタイムスパンのなかで捉えた大河の流れが途絶えることなく繰り返されるように、岸辺の文化を栄養に取り込みながら、ちょうど四半世紀の周期を経て、今一度原点に符合したようだ。

今まで見てきた光景、味わってきたもの、経験してきたこと、それに様々な人々との出会いなどのよるこびを励みにし、今の学生と同様に改めてスタートラインに立ち、さらにこれからの四半世紀の建築創作冒険に挑む決意である。

（非常勤講師 設計演習Ⅱ）

■筆者略歴

高 俊民(こう しゅんみん)

1946年 東京生まれ
1964～68年 コロンビア大学数学科在学
1968～72年 ハーバード大学大学院建築学科在学
1972～73年 セルト・ジャクソン&アソシエイツ勤務
1973～76年 丹下健三・都市・建築設計研究所勤務
1977～86年 SKM設計計画事務所設立及び主宰
1987年～ アーキノーバ建築研究所設立及び主宰
1988年 マギール大学建築学科客員教授（モントリオール）
1992年～ 日本大学理工学部非常勤講師



- ①聖フランシスコ・ザビエル修道院
- ②在日リビア大使館
- ③在日アラブ首長国大使館及び公邸
- ④ハワイ・ロア・リッジの家
- ⑤1/4円の家
- ⑥3つの切妻屋根の家
- ⑦ノコギリ屋根の家



高齢化社会の 住環境を考える

松尾 登志子

老後の人生も長くなり、残りの人生を受身にとらえるのではなく、積極的に生き生きと過ごしていこうとする、経済的にも精神的にも自立した人たちが増えている。前向きに生きる高齢者が、安心して豊かに暮らしていくには、どのような住環境が求められているのかを、建築家の視点で追求する活動に取り組んでいる。

＊

誰しもいつの日か迎える高齢期。12人の女性建築家が自分自身の高齢期の生活や住まいをイメージして描いた『終の住みか展』も、この活動の一つである。

1994年～1996年の3ヵ年間に、東京都を中心に7会場で開催した。模型やパース、イラストなどを使い、高齢者とその住環境についての提案を行った。

東京建築士会・建築学会・建設省での展示では、日常の設計活動の中で、高齢者住宅の設計に関わる専門分野の方々の入場が多数を占めていたが、「先端技術フェア'95 in 九州」(マリンメッセ福岡 写真①・②)では、『老後の生活を、活動的で健康に過ごすための工夫を知りたい』という一般の方々の来場が多数を占めており、4人に1人が65歳以上になるという超高齢化社会が、間近にせまっている現実を実感した。

＊

建築事務所を開設して16年目に入ったが、高齢者の住環境に関する調査研究や、高齢者住宅の設計が増えていく。高齢者と住環境についての研究を、様々な活動を通して続け、高齢者にとって快適な住環境の提案を今後も続けていきたい。

(非常勤講師 設計製図Ⅱ・Ⅲ)



①



②

①東京ガス・銀座ポケットパークでの2ヵ月間に及ぶ展示が、先端技術フェア主催者の目にとまり、九州で出展の運びとなった。ブース入り口に立つ筆者

②多世代が住む都市型中層住宅 模型・パネル(制作協力)三和興産機直方工場)

多世代で一つ屋根の下に住み、互いの生活をバックアップし、できる限り仕事を続け、経済的にも精神的にも自立した老後をおくことを目指し、職住近接の集合住宅を提案した。

③健康な高齢者が建てた温泉付き「ついの住みか」 大分県別府市N邸

施主夫妻は長く東京に暮らしていたのだが、建物の老朽化に加え周囲の住環境も悪化してきたため、海を見下ろす温暖なこの地に生活の場を移した。



③

■筆者略歴

松尾 登志子(まつお としこ)

1951年 福岡県北九州市生まれ
1974年 日本大学理工学部建築学科卒業
1976年 日本大学大学院理工学研究科修士課程修了
(建築環境工学専攻)
ジャパンデベロプメント(株)・オーケー(株)を経て
1982年 松尾建築事務所開設、主宰
1992年～ (財)建築技術教育普及センター委員
1993年～ 東京都建築士審査会委員
1994年～ 日本大学短期大学部非常勤講師

平成8年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

平成9年3月

◆概況

新年度の就職活動に関しては、24年ぶりの就職協定廃止に伴い「就職前倒し」「採用活動の長期化」や「青田買いが復活する」などの予想がマスコミ等で報道されている。就職協定廃止に対する就職活動については平成9年度就職担当から説明があるので、ここでは平成8年度の建築学科の就職状況を概観する。

平成8年度の就職希望者と進学者は、学部283名、大学院47名、計330名であった。そのうち就職希望者は295名であったが、2月24日現在就職内定者は264名で内定率は90％となっている。残りの10％は公務員試験や希望の設計事務所に再挑戦する者、あるいは本人の意思が決定しない者の比率である(表-1)。

以下、学部生の就職状況を中心に昨年度と比較して本年度の状況を概観し、次いで新年度の就職活動への留意事項を述べたい。

◆企業からの求人状況(表-2, 表-3)

本年度の求人会社数の合計は955社で、昨年度に比べ39社(約4％)増加した。当初は就職氷河期に解凍の兆しもうかがえるかと期待されたが、それほどの求人増はみられなかった。以下、各業種別に昨年度比で本年度の特徴をみると、建設業は376社であり、わずかに増えて104％、住宅、不動産は94社の求人数があり、かなり増えて129％、以下、設備：110％、設計事務所、イ

ンテリア：105％、建材、エンジニアリング：73％、コンピュータ、情報：127％、製造業、営繕ほか：104％であった。これを企業別にみると、大企業が110％、中企業が102％、小企業が114％となった。全体的にみると、ここ3年連続の減少傾向に一応歯止めがかかったようである。しかしバブル景気崩壊後、リストラの名の下で行われてきた新規採用枠の削減という雇用調整がそのまま定着しつつあり、景気の低迷が続く現在、本年度のような求人数が今後しばらく続くものと思われる。

◆内定者の内訳(表-3, 表-4)

内定者の業種別内訳について特徴的なことは、次の通りである。

1. 建設業への内定者の比率は、就職、進学者の合計に対して25.8％で、昨年に比べ3％減である。内定をみると指定15社の内定者は、昨年の29名から31名とわずかに増えたが、大手5社をみると内定者は昨年の17名から15名に減少している。
2. 住宅、不動産への内定者の比率は全体の22.4％であった。近年、この分野への比率が建設業のそれに近づきつつあることが注目される。人数は昨年よりわずかに減少して74名であるが、このうち女子学生が18名で昨年の11名からみるとかなり増えている。女子学生の厳しい就職状況のなかでの健闘が目立った。住宅産業は例年通り企業側の求人活動開始が非

表-1 就職状況の概況

注：()内は女子内数

	平成8年度			平成7年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	240(64)	55(5)	5	260(59)	44(8)	5(1)
就職内定者数	218(58)	46(3)	5	236(51)	38(6)	5(1)
内定者／希望者数	90.8%	83.6%	100%	90.8%	86.3%	100%
大学院進学者数(研究生・留学生含む)	65(9)	1	2	55(8)	2	1
就職・進学者数	283(67)	47(3)	7	291(59)	40(6)	6(1)
求人会社数	961			916		

表-2 月別求人数

	平成8年度	前(7)年度
4月	160(再1)	107
5月	387(再1)	352
6月	241(再1)	289
7月	111	108
8月	31(再4)	19
9月	14(再4)	17
10月	8(再4)	12
11月	5(再3)	6
12月	4	1
1月	0	2
合計	961(再18)	913

常に早いですが、新年度の就職協定廃止に伴いその傾向はさらに加速されるであろう。

3. 設計事務所への内定者は全体の17.9%、人数は59名で、わずかに増加している。しかし女子学生の設計事務所への内定者が昨年の21名に比べ、本年度は14名とかなり減少している。
4. 設備への内定者は全体の1.8%、建材、エンジニアリングは2.1%で、昨年と比べて減少している。
5. 製造業、営繕その他への内定者は全体の6.1%で、昨年に比べるとかなり増えている。特に、大学院生の内定者が増加している。

建材、エンジニアリングや製造業、営繕に分類される企業のなかには今回内定した以外にも、就職の対象に勤めたい企業からいくつか求人がきていた。仕事の内容はいろいろであるが、建築関連の企画等の新しい活躍の場もあるようである。仕事の内容がはっきりしない場合は、積極的に会社訪問をして調べる意欲が望まれる。

6. 官公庁、法人への内定者は9名、全体の2.7%で昨年とほぼ同じであり、このうち2名は女子学生である。国家公務員や地方公務員は、民間企業に比べ女

子学生にとって採用の機会の多い職場である。女子学生の現在の厳しい就職状況にあつては、公務員試験への挑戦が強く望まれる。

7. 大学院進学者は全体の20%で、昨年より約3%増えている。人数は学部から65名、大学院から1名が進学を決めている。

◆平成9年度に向けて

最近の就職試験の選考方法は、面接試験を重視するとともに、筆記試験については、大半の企業が専門試験より職業適性テスト（SPI試験）を採用している。学業成績が優秀であるのに、SPI試験の結果で不採用のケースもみられた。就職指導課では就職活動の心構えと準備の一環として、面接講座やSPI模擬試験（4月末予定）を実施している。これらに積極的に参加してほしい。

就職協定廃止元年の新年度には、多少の混乱が予想される。早めに情報を集め、十分な対策を立てることを望む。厳しい就職戦線の試練を真剣に受け止め、企業の規模や知名度にこだわらず、社会における自分を見つめ、自己の能力が発揮できる企業を選ぶことを期待している。
(平成8年度就職担当：安達俊夫)

平成9年度の就職に当たって

平成9年度就職担当 井上 勝夫

今年あたりから景気回復が期待され、就職状況も多少緩和されてくるものと予測されていましたが、その兆しはいっこうに見られず「氷河期」のまま就職戦線に突入しています。景気が落ち込んでいると、企業では当然、「少数の優秀な人材確保」が至上命題ですから、他社に先駆けて採用活動を開始するわけです。ご承知の通り、今春1月下旬に就職協定の廃止が正式に決定され、企業側もすでに会社訪問の受け入れを開始するなど、早々と具体的な採用活動を行っているところも出始めました。それゆえ、学生側も出遅れては、それなりのリスクを背負うことになりますから、就職状況を十分把握してほしいと思います。

私は、このような実情を授業中にも再三、話してきましたので、ほとんどの学生諸君は、春休み中に自分の適職・将来等について十分考え、就職活動を開始していることと思います。今後は、正確な情報収集のもと、具体的な就職活動を進めてほしいと思います。

情報収集には、本大学へ来ている求人票、就職雑誌、インターネットによる情報検索、はがきによる資

料請求などいろいろ活用していただき、自分の将来の活躍の場として相応しいかどうかを判断して下さい。また、建築学科の先生方は、いろいろな企業とのコンタクトが豊富にあり、各企業の内情等もよく知っているので、情報収集のため、意見をうかがうことも重要なことと思います。特に、卒業研究の担当の先生は、その研究室の卒業生の就職後の様子などもよくわかっているので、貴重なアドバイスができると思います。ぜひ、積極的に相談してみてください。

氷河期の就職戦線とは言っても、当建築学科の場合は十分な数の求人数がありますので、あまり悲観することなく、自分の能力を売り込む絶好なチャンスと考え、緊張することなく、伸び伸びと就職活動を行ってほしいと思います。私も平成9年度の就職担当として、できる限りのバックアップ、相談などをさせていただきます。

なお、推薦状の発行や各種手続きの方法等については、就職ガイダンス時に説明いたします。

〈研究室：582-A TEL：03-3259-0418〉

表－3 求人・内定者の内訳

	求 人 会 社 数				内 定 者 数								内定者 数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建 設 業	106	155	115	376	61(5)	10	11(3)		3(1)		75(9)	10	25.8
B 住 宅 ・ 不 動 産	34	37	23	94	54(12)	2	16(6)		1		71(18)	2	22.1
C 設 備	29	37	26	92	1	2	1(1)		2(1)		4(2)	2	1.8
D 設計事務所・インテリア	14	43	150	207	7(3)	5	5(2)	6	25(9)	11(1)	37(14)	22(1)	17.9
E 建材・エンジニアリング	27	28	14	69	3(1)	1	2(1)		1(1)		6(3)	1	2.1
F コンピュータ・情報	3	7	4	14					2(1)		2(1)		0.6
G 製造業・営繕・その他	47	34	14	95	8(5)	8(1)	1	1(1)	2(1)		11(6)	9(2)	6.1
小 計	260	341	386	947	134(26)	28(1)	36(13)	7(1)	36(14)	11(1)	206(53)	46(3)	76.4
H 官 公 庁 法 人				8							9(4)		2.7
I 大 学 院 進 学 (留学生・研究生含む)											65(9)	1	20.0
J 自 営 業											3(1)		0.9
総 計	955										283(67)	47(3)	
											330(70)		

以下の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員500名以上，中企業…従業員100名以上，小企業…従業員100名以下，()内は女子内数，求人会社数…再募集及び分類不明は除く。

表－4A 就職先の内訳〈建設〉

注：欄は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
竹 中 工 務 店	1	2							1	2	大 末 建 設			1						1	
鹿 島 建 設	2								2		穴 吹 工 務 店	1								1	
大 成 建 設	3	1			2			1	5	2	佐 田 建 設							1		1	
大 林 組	1			1	1(1)				2(1)	1	南 海 辰 村 建 設					1(1)				1(1)	
戸 田 建 設	1								1		大 木 建 設							1		1	
熊 谷 組	7(1)								7(1)		タ イ ア 建 設							1(1)		1(1)	
フ ジ		1								1	植 木 組							1		1	
三 井 建 設					1(1)				1(1)		大 鉄 工 業							1		1	
間 組	1								1		藤 木 工 務 店							1		1	
西 松 建 設	1			1					1	1	新 井 組	1								1	
東 急 建 設	2								2		共 立 建 設							1		1	
前 田 建 設 工 業	1								1		松 井 建 設	2								2	
五 洋 建 設 業	1								1		り ん か い 建 設			1						1	
太 平 工 業 設	1								1		北 野 建 設							1		1	
飛 鳥 建 設							2		2		馬 淵 建 設	1								1	
東急コミュニティー	2								2		木 内 建 設							1		1	
青 木 建 設	1								1		三 平 建 設							1		1	
住 友 建 設	1		1						2		佐 藤 秀			1(1)						1(1)	
東 洋 建 設	1								1		近 藤 建 設							1(1)		1(1)	
鉄 建 建 設		2	1(1)						1(1)	2	東武谷内田建設					1				1	
銭 高 組	1								1		山 形 建 設				1					1	
浅 沼 組							1		1		松 下 産 業							1		1	
長谷工コーポレーション	1		1						2		平 岩 建 設							1		1	
日 産 建 設	1								1		鈴 木 工 務 店							1		1	
若 築 建 設	1								1		日 成 工 事							1		1	
川 田 工 業			1						1		平 成 建 設							1(1)		1(1)	
森 本 組	1								1		荒 井 組							1		1	
ビ ー ・ エ ス				1						1	滝 沢 建 設					1				1	
福 田 組							1		1		東 レ 建 設					1				1	
オリエンタル建設			1						1												
総 計											37(1)	6	8(2)	3	9(3)	0	21(3)	1	75(9)	10	

表－4B 就職先の内訳（住宅・不動産）

注：株は省略（ ）内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
積 水 ハ ウ ス	1		3 (1)				10	14 (1)		セキスイツニー ーホーム東京							1		1
大和ハウス工業	6 (2)		1 (1)				8	1	15 (3)	1	野 村 ホ ー ム						1		1
ナショナル住宅産業	1							1		茨城セキスイハイム							1		1
一 条 工 務 店	1 (1)		1						2 (1)	ホ ー ム イ ン グ							1		1
三 井 ホ ー ム							1 (1)		1 (1)	千葉ミサワホーム							3 (2)		3 (2)
旭化成ホームズ							3 (1)		3 (1)	トヨタホーム東京							1		1
大 京							2		2	ミサワホーム静岡							2		2
クボタハウス							2		2	テ ィ ボ ン							2 (2)		2 (2)
中 央 住 宅							4 (1)		4 (1)	パナホーム埼玉中央							1 (1)		1 (1)
大 和 団 地							2	1	2	1	トヨタホーム名古屋						1 (1)		1 (1)
三 井 農 林							1 (1)		1 (1)	北陸セキスイハイム							1		1
リクルートコスモス							3 (1)		3 (1)	一条工務店群馬							1		1
富 士 ハ ウ ス							1		1	パナグランド千葉							1		1
扶桑レクセル							1 (1)		1 (1)	ニッセキハウス工業							1		1
三 和 ホ ー ム							1 (1)		1 (1)										
総 計										9 (3)	0	5 (2)	0	0	0	57 (3)	2	71 (8)	2

表－4C 就職先の内訳（設備）

注：株は省略（ ）内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部
新菱冷熱工業		1							1	環境エンジニアリング							1	1	1	1
三建設工業							1		1	日本エアコンセンター			1(1)						1(1)	
日本クレスコ							1(1)		1(1)											
総 計											0	1	1(1)	0	0	0	3(1)	1	4(2)	2

表－4D 就職先の内訳（設計事務所・インテリア・コンサルタント）

注：株は省略（ ）内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		
エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ	1 (1)			1			1			五建設事務所	1							1		
日 建 設 計							1	1	1	村 上 設 計							1	1		
池 下 設 計							1	1	1	池 原 義 郎						1 (1)		1 (1)		
船 場							1 (1)		2 (2)	建築設計事務所			1					1		
久 米 設 計					1				1	長建設設計事務所										
丹 青 社							2 (1)		2 (1)	永山建築設計事務所							2	2		
山 下 設 計					2				2 (1)	ZEN建築構造事務所				1				1		
石本建築事務所					1				2	斎藤建築設計事務所						1 (1)		1 (1)		
類 設 計 室									1	青 木 繁 研 究 室				1				1		
ベ ル グ								1	1	構造計画プラスワン						1 (1)	1	1 (1)		
布 谷								1	1	佐々木睦朗							1	1		
東京松下電工								1 (1)	1 (1)	構造計画研究所			1 (1)					1 (1)		
エス・エス・エフ・ジー										石崎構造設計								1		
日 総 建			1						1	吉岡建築事務所								1		
松本構造設計室									1	松本構造設計室							1	1		
寺 設 計									1	寺 設 計							1	1		
メックデザイン									1 (1)	メックデザイン								1 (1)		
インターナショナル								1 (1)	インターナショナル								1 (1)			
VILHELM HELANDER JUHA									VILHELM HELANDER JUHA								1			
LEIVISKÄ ARKKITHTIT SA									LEIVISKÄ ARKKITHTIT SA								1			
Zy and Partners								1 (1)	Zy and Partners								1			
伊藤建築設計事務所								2 (1)	伊藤建築設計事務所							1	1			
協立建築設計事務所								1	協立建築設計事務所							1	1			
山崎建築事務所								1	山崎建築事務所							1	1			
エ ク サ ス							1	1	エ ク サ ス						1 (1)		1 (1)			
奥野建築設計事務所							1	1	奥野建築設計事務所						1		1			
佐々木建築設計事務所							2 (1)	2 (1)	佐々木建築設計事務所			1					1			
ユニバーサル設計								1	ユニバーサル設計							1 (1)	1 (1)			
泉幸甫建築研究所								1	泉幸甫建築研究所							1	1			
総 計										総 計	2 (1)	1	3 (1)	8 (1)	3 (1)	2	29 (1)	11	37 (4)	22 (1)

表－４E 就職先の内訳〈建材・エンジニアリング〉

注：欄は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
ト ス テ ム							2		2	日本磁硝子環境アメニティ			1						1
三井木材工業			1				1(1)		1(1)	軽金属商工							1(1)		1(1)
住商建材							1(1)		1(1)										
総 計	0	0	1	1	0	0	5(3)	0	6(3)	1									

表－４F 就職先の内訳〈コンピュータ・情報〉

注：欄は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
日清ビジネスアシスト							1		1	システムアーキテクト					1(1)				1(1)
総 計	0	0	0	0	1(1)	0	1	0	2(1)	0									

表－４G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：欄は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
新日本製鉄				1					1	大和工商リース							1		1
東京電力		1			1			1	1	三菱倉庫							1(1)		1(1)
三菱重工業		1							1	オイレス工業			1						1
西友				1(1)					1(1)	ダイエイフオート							1(1)		1(1)
石川島播磨重工業		1							1	エンタープライズ									
東京ガス			1(1)					1(1)		平和							1		1
積水化学工業		1							1	大都販売							1		1
東芝ライテック				1					1	ポーネルド			1				1(1)		1(1)
コクヨ	1(1)							1(1)		みなとみらい			1						1
クリナップ						1(1)		1(1)		開発センター							1(1)		1(1)
日本調理機										日本調理機									
総 計	1(1)	4	2(1)	4(1)	1	0	7(4)	1(1)	11(6)	9(2)									

表－４H 就職先の内訳〈官庁・法人〉

注：欄は省略 ()内は女子内数

会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会 社 名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
建設省関東地方建設局							1(1)		1(1)	松戸市役所							1		1
建設省建築研究所							1		1	神奈川県住宅供給公社							2(1)		2(1)
福島県庁							1		1	沖縄県建築士会							1		1
坂戸市役所							1		1	建材試験センター							1		1
総 計							9(2)		9(2)										

表－４I 就職先の内訳〈大学院〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
日本大学大学院	61(8)	1	62(8)
日本大学研究生	2	0	2
東京工業大学大学院	1(1)	0	1(1)
留 学	1	0	1
総 計	65(9)	1	66(9)

表－４J 就職先の内訳〈自営業〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
建 設 業	1(1)	0	1(1)
設計事務所	2	0	2
総 計	3(1)	0	3(1)

表－５ 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教 室 推 薦	49	12	61	24.2
研究室推薦	20	15	35	13.9
縁 故 推 薦	14	2	16	6.3
自 由 応 募	124	17	141	55.6
総 計	207	46	253	100

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く

平成8年度修了生・卒業生各賞受賞者一覧

優等賞

3278 森川 和彦	石丸研究室	3249 佐々木有紀枝	高宮研究室	3297 横山 朋子	野村研究室
3224 土生多恵子	野村研究室	3312 渡邊 健一	平山研究室	3010 網谷 直樹	小嶋研究室
3068 小野 健	関沢研究室	3173 田中 久勝	横山(岸谷)研究室	3251 松本 健一	野村研究室
5050 清水 雅人	短期大学部	5088 牧野 純司	短期大学部	5013 小澤稚絵子	短期大学部

齋藤賞

M-5021 鴨下 順司	「有効応力解析のための間隙水圧モデルに関する基礎的研究—エネルギー特性に基づく検討—」	指導：榎並 昭教授，安達俊夫助教授
M-5056 和田 剛	「諫早湾干拓事業における生態・防災・耕地の総合的な形成を目指した環境デザイン」	指導：本杉省三助教授

駿建賞

M-5004 石井健太郎	「実歩行に対応する衝撃シミュレータの開発と住宅床の振動応答特性に関する研究」	指導：木村 翔教授，井上勝夫助教授
M-5007 石橋英里子	「住宅照明環境が高齢者に与える心理的影響に関する研究」	指導：野村 敏教授
M-5012 内田 善尚	「学術情報館—日本大学理工学部における研究・教育メディアサービス施設の設計—」	指導：高宮真介教授

駿構賞

M-5011 今村 柳輔	「MJG式ガラス支持ケーブル構造の力学特性と適用性に関する研究」	指導：斎藤公男教授
M-5038 田村 真利	「超大型寸法を考慮したRC梁の寸法効果に関する研究」	指導：白井伸明助教授
M-5041 長島 和央	「モデル・フォロイング制御則を用いた制震機構の開発について」	指導：石丸辰治教授

桜建賞

〈卒業研究〉	3004 浅川 貴史	3047 浦島 靖子	3108 小林 英樹	3155 強谷 陽	3281 柳原 崇	「景観整備事業が住民意識に与える影響に関する研究—長野県小布施町における景観整備事例の分析を通して—」	指導：小嶋勝衛教授，根上彰生専任講師，宇於崎勝也助手
	3077 片山 育子	3236 福山由美子	3276 守谷 浩幸	「集合住宅における屋外騒音に対する居住者意識の研究」			指導：木村 翔教授，井上勝夫助教授
	3243 帆刈 大慈	3246 本間 剛	「倍力機構を用いた制振デバイスに関する基礎的研究」				指導：石丸辰治教授，新谷隆弘助手
	3103 香田 文慶	5809 遠藤 康朗	「長期荷重を受ける RC 基礎梁の変形状と耐力に関する実験的研究」				指導：榎並 昭教授，安達俊夫助教授
〈卒業設計〉	3087 川原塚彩子	「知・活・遊・作」				指導：関沢勝一助教授，榎並 昭教授	
	3185 土田耕太郎	「Takatori Cathoric Church」				指導：関沢勝一助教授，片桐正夫教授	
〈短期大学部 卒業設計〉	5044 佐藤 圭	「Information Market」				指導：小石川正男(短大)教授	
	5075 花澤 弘昌	「Potential—子供達のための創造空間—」				指導：小石川正男(短大)教授	

奨励賞

〈修士論文〉M-5015 丘 将	「液化化発生時の地震動強さに関する有効応力解析—スペクトル強度に基づく解析的検討—」			指導：榎並 昭教授，安達俊夫助教授
M-5017 梶 裕佳子	「自由意見に着目した集合住宅居住者の音環境に対する意識に関する研究」			指導：木村 翔教授
〈卒業設計〉3052 大野 博史	「記憶というイメージ—排除されたものの記憶—」			指導：若色峰郎教授，横山 清短大教授

企画奨励賞

3006 東 輝 3108 小林 秀樹 3281 柳原 崇 「沖縄チャンブル 普天間飛行場跡地利用計画」

指導：小嶋勝衛教授，三橋博巳助教授，柳田 武専任講師，石田道孝専任講師，根上彰生専任講師

桜工賞

M-5018 勝山 範之	建築学科コンピュータシステム管理者（ボランティア）として活躍し，建築学科の教育・研究環境の向上に貢献	所属：半貫研究室
M-5049 宮久保亮一	同上	所属：石丸研究室
M-5053 矢板 文男	第30回セントラルガラス国際デザインコンペティション，最優秀賞受賞	所属：関沢研究室
M-5012 内田 善尚	日経アーキテクチャ誌主催「日経アーキテクチャ第2回デジタル・デザイン・コンペティション」[学生部門] 優秀賞受賞	所属：高宮研究室
M-5019 金子 耕二	身体障害者に対するボランティア活動のグループリーダーとして貢献	所属：吉田研究室
3181 竹馬 基人	卒業アルバムの制作幹事として，中心的に活躍	所属：斎藤研究室
3253 松井 邦人	平成7年度建築展実行委員長として，建築展の企画・実施に活躍	所属：関沢研究室
3094 工藤由貴子	阿蘇町農村公園アート・プロジェクト・コンペティション，優秀賞受賞	所属：小嶋研究室
5088 牧野 純司	クラス幹事としての業績	短期大学部
5010 大城 光子	クラス幹事としての業績	短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞^{*1}

M-5003 池末 宏行 「小規模開発に対する地方自治体の規制誘導方策に関する研究—東京都27市の宅地開発等指導要綱の運用実態分析を通して—」

指導：小嶋勝衛教授，根上彰生専任講師，宇崎崎勝也助手

M-5010 中村 智広 「都市沿岸域における開発と漁業との調整のあり方に関する研究」

指導：横内憲久教授，桜井慎一専任講師

日本環境管理学会賞^{*2}

M-5005 川島 和彦 「景観整備の波及効果に関する研究—長野県小布施町における拠点整備の事例分析を通して—」

指導：小嶋勝衛教授，根上彰生専任講師，宇崎崎勝也助手

* 1 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に，平成8年度をもって定年となった佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え，不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

* 2 日本環境管理学会から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により，大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成7年度新設，旧・日本環境管理学会会長賞）

卒業生就職先・研究課題一覧

平成8年度

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏 名	就職先	論文題目	
吉田あきら教授				
D-2001	佐藤 篤史	郡山女子大学	住宅熱環境が高齢者の身体に及ぼす影響についての研究	・建築学専攻・
小嶋勝衛教授・根上彰生講師				
D-4001	浅利 隆文	日興不動産株 (社会人大学院生)	住宅地域の地価評価に関する実証的研究	・不動産科学専攻・

企画奨励賞

3006 東 輝 3108 小林 秀樹 3281 柳原 崇 「沖縄チャンブル 普天間飛行場跡地利用計画」

指導：小嶋勝衛教授，三橋博巳助教授，柳田 武専任講師，石田道孝専任講師，根上彰生専任講師

桜工賞

M-5018	勝山 範之	建築学科コンピュータシステム管理者（ボランティア）として活躍し，建築学科の教育・研究環境の向上に貢献	所属：半貫研究室
M-5049	宮久保亮一	同上	所属：石丸研究室
M-5053	矢板 文男	第30回セントラルガラス国際デザインコンペティション，最優秀賞受賞	所属：関沢研究室
M-5012	内田 善尚	日経アーキテクチャ誌主催「日経アーキテクチャ第2回デジタル・デザイン・コンペティション」[学生部門] 優秀賞受賞	所属：高宮研究室
M-5019	金子 耕二	身体障害者に対するボランティア活動のグループリーダーとして貢献	所属：吉田研究室
3181	竹馬 基人	卒業アルバムの制作幹事として，中心的に活躍	所属：斎藤研究室
3253	松井 邦人	平成7年度建築展実行委員長として，建築展の企画・実施に活躍	所属：関沢研究室
3094	工藤由貴子	阿蘇町農村公園アート・プロジェクト・コンペティション，優秀賞受賞	所属：小嶋研究室
5088	牧野 純司	クラス幹事としての業績	短期大学部
5010	大城 光子	クラス幹事としての業績	短期大学部

不動産科学専攻研究奨励賞^{*1}

M-5003 池末 宏行 「小規模開発に対する地方自治体の規制誘導方策に関する研究—東京都27市の宅地開発等指導要綱の運用実態分析を通して—」

指導：小嶋勝衛教授，根上彰生専任講師，宇崎崎勝也助手

M-5010 中村 智広 「都市沿岸域における開発と漁業との調整のあり方に関する研究」

指導：横内憲久教授，桜井慎一専任講師

日本環境管理学会賞^{*2}

M-5005 川島 和彦 「景観整備の波及効果に関する研究—長野県小布施町における拠点整備の事例分析を通して—」

指導：小嶋勝衛教授，根上彰生専任講師，宇崎崎勝也助手

* 1 大学院不動産科学専攻専任教員の基金に，平成8年度をもって定年となった佐藤進非常勤講師（元・専任教授）から寄せられた基金を加え，不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。

* 2 日本環境管理学会から不動産科学専攻にその運営を委託された基金により，大学院不動産科学専攻の優秀修士論文に贈られる。（平成7年度新設，旧・日本環境管理学会会長賞）

卒業生就職先・研究課題一覧

平成8年度

大学院博士後期(博士)課程

学生番号	氏 名	就職先	論文題目	
吉田あきら教授				・建築学専攻・
D-2001	佐藤 篤史	郡山女子大学	住宅熱環境が高齢者の身体に及ぼす影響についての研究	
小島勝衛教授・根上彰生講師				・不動産科学専攻・
D-4001	浅利 隆文	日興不動産株 (社会人大学院生)	住宅地域の地価評価に関する実証的研究	

大学院博士前期(修士)課程

学生番号	氏 名	就職先	論文題目	
石丸辰治教授				・建築学専攻・
M-5016	岡村 成子	石崎構造設計株	バイリニア履歴系の応答を基本としたトリリニア履歴系の応答推定法	
M-5041	長島 和央	オイレス工業株	モデル・フォロイング制御則を用いた制振機構の開発について	
M-5049	宮久保亮一	株石本建築設計事務所	制振・鞘堂システムの動特性の抽出に関する研究	
榎並 昭教授・安達俊夫助教授				・建築学専攻・
M-5001	青島 真二	鉄建建設株	セメント系砂質改良土の液状化特性に関する実験的研究	
M-5015	丘 将	株日総建	液状化発生時の地震動強さに関する有効応力解析 —スペクトル強度に基づく解析的検討—	
M-5021	鴨下 順司	東京電力株	有効応力解析のための間隙水圧モデルに関する基礎的研究 —エネルギー特性に基づく検討—	
片桐正夫教授				・建築学専攻・
M-5024	金 哲主	高松伸建築設計事務所	韓日の伝統論争の建築作品の比較による韓国建築の固有性の解明に関する研究	
M-5039	鄭 赫鎮		韓国近・現代にみる近代建築思想の変遷とその成立過程に関する研究	
M-5048	緑川 正利	長建設計	昭和戦前期の「モダニズム住宅」にみる理念と手法に関する研究	
木村 翔教授・井上勝夫助教授				・建築学専攻・
M-5004	石井健太郎	株竹中工務店	実歩行に対応する衝撃シミュレータの開発と住宅床の振動応答特性に関する研究	
M-5017	梶 裕佳子	株西友	自由意見に着目した集合住宅居住者の音環境に対する意識に関する研究	
M-5042	中島 亨	株フジタ	ホール内音場の仮想音源分布と音に包まれた感じに関する研究	
M-5045	萩野矢和弥	新菱冷熱工業株	残響音場における反射音応答性状に着目した音声の聞き取りやすさの評価に関する研究	
M-5046	平光 厚雄	鉄建建設株	歩行感からみた住宅床の感覚評価に関する研究	
M-5054	山口 順	大成建設株	OSSを用いた両耳受聴による音場合成のための残響音付加手法に関する研究	
小嶋勝衛教授・根上彰生講師				・建築学専攻・
M-5034	清水 英俊	株山下設計	高度情報化社会における都心型オフィスの計画と設計 —情報化によるオフィスへの影響及びオフィス立地条件の考察を通して—	
斎藤公男教授				・建築学専攻・
M-5009	伊藤 博之	三井木材工業株	木造張弦梁構造の継手接合部と耐雪型システムに関する研究	
M-5011	今村 柳輔	博士後期課程進学	MJG式ガラス支持ケーブル構造の力学特性と適用性に関する研究	
M-5014	大塚 剛	三菱重工業株	テンション・グリッド・ドーム (TGD) のストリング効果に関する基礎的研究	
M-5022	城戸 隆宏	株山下設計	ケーブル補強されたアルミニウム・フラットアーチ構造の実験的研究	
M-5023	木村 正豪	株久米設計	サスペンション膜構造の簡略設計手法に関する研究 —ケーブル置換法及び略算法について—	
M-5027	小西 泰孝	株佐々木睦朗 構造計画研究所	テンショントラス構造の基本特性に関する実験的研究	
M-5028	小林真一郎	株構造設計プラス・ワン	多雪地域における大規模張弦ドームの構造計画に関する一考察	

M-5029 小林 哲也 新日本製鐵㈱ テンションリングを有する放射型ケーブル屋根構造の構造計画に関する研究—PS設定手法及び施工計画について—

関口克明教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5043 長町 一生 ㈱竹中工務店 1/10縮尺音響模型を用いた舞台音響設計のための基礎的研究
—客席空間に対するステージ形態の音響効果の検討—

M-5047 三沢 茂 東芝ライテック㈱ 建築環境評価における脳波応答の導入に関する研究
—バリアフリーを対象とした具体的事例による検討と評価—

高宮真介教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5012 内田 善尚 Zy and Partners 学術情報館—日本大学理工学部における研究・教育メディアサービス施設の設計—

野村 歓教授・石田道孝講師 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5002 安部 美樹 高齢者・障害者の身体機能を考慮した住宅サニタリールームの改造計画

M-5005 石戸陽里子 高齢者の外出時の身体的負担から見た環境整備のあり方に関する研究

M-5007 石橋英里子 ㈱ボーネルンド 住宅照明環境が高齢者に与える心理的影響に関する研究

M-5033 柴野あゆ子 老人デイサービスセンターにおける痴呆性老人の建築環境に関する研究

M-5057 平井 充 ㈱住宅・都市問題研究所 大都市地域における高齢者居住用民間賃貸住宅のあり方に関する研究

半貫敏夫教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5018 勝山 範之 石川島播磨重工業㈱ アイスドーム構造の補強と昇華抑制に関する模型実験と数値解析

M-5035 高橋 誠一 積水化学工業㈱ 建物軒先近傍の積雪沈降荷重に関する数値解析的研究

M-5052 森瀬 修司 ㈱桂建築設計事務所 開断面鉄骨柱の耐震補強に関する数値実験

平山善吉教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5030 小林 宏輝 大和ハウス工業㈱ LVL材と集成材の力学的特性に関する実験的研究
—南極昭和基地居住棟の実大構造ユニットに関する強度試験を通して—

本岡順二郎教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5013 江口 尚之 ㈱ビー・エス プレテンション・ポストテンション合成梁の力学的挙動に関する実験的研究

吉田あきら教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5019 金子 耕二 ㈱大林組 高齢者居住施設の温熱環境に関する研究
—各種実態調査からうかがわれる現状とその問題点—

M-5040 中川 洋輔 ㈱環境エンジニアリング 空気調和計画と一体化した室内意匠に関する研究
—気流分布計画に組み込まれた室内形状の選定—

M-5058 割石 浩幸 (社会人大学院生) 集合住宅の居住下におけるカビの発生実態と評価に関する研究—ライフスタイルによるカビの発生防止とコンピュータ支援に基づく解析手法の検討—

若色峰郎教授 ————— ・ 建築学専攻 ・

M-5006 石鍋 壮史 ㈱石本建築事務所 PROJECT FOR MEDIA SPACE
—コミュニケーション・メディアをめぐる行為を包括する場として—

M-5010 伊藤 力哉 伊藤建築設計事務所 地場産業振興施設の計画と設計—飛騨高山・匠の森工芸館—

M-5020 金子 吉明 佐々木設計事務所 地方博物館における教育普及活動の内容、及び体験学習のプログラ

M-5031 小柳 成司 株式会社 〇と活動形態について―市民参加型地方博物館の計画に関する研究―
生涯学習機能を主とする施設における諸室構成の動向と施設類型について―地域集会所関連施設の建築計画に関する研究―

白井伸明助教授 ――― ・建築学専攻・
M-5026 小島 貴人 青木繁研究室 非線形有限要素法による地震荷重を受けるRC造耐震壁の破壊挙動解析
M-5038 田村 真利 西松建設㈱ 超大型寸法を考慮したRC梁の寸法効果に関する研究

関沢勝一助教授 ――― ・建築学専攻・
M-5003 新井 健太 大成建設㈱ 教授方法からみた昭和初期の尋常小学校の建築計画に関する研究
M-5008 石原 亮 Vilhelm Helander, Juha Leiviskä, Arkkitehdit SAFA, Finland CGを活用したイメージ作成に関する研究
M-5036 高橋 正明 秋田県大潟村における農業文化ゾーンの計画と設計
M-5044 西島 恒雄 住友不動産フィットネス㈱ ネットワークによる協調設計のための二次元CADデータの管理に関する研究
M-5051 村田 逸平 理工学研究所研究生 地域開放の視点からみた小学校建築の計画と設計
―板橋区高島平地区におけるケーススタディー―
M-5053 矢板 文男 理工学研究所研究生 盲学校高等部普通科における生徒の移動に関する建築計画的な研究
―東京都立文京盲学校におけるケーススタディー―

本杉省三助教授 ――― ・建築学専攻・
M-4032 田邊 伸二 北区つか劇場計画
M-4036 富田 清和 ㈱池下設計 公共文化ホール施設における利用状況と市民文化活動に関する研究
―市川市文化会館を例として―
M-5025 倉本 剛 観光総合研究所計画
M-5032 逆瀬川和孝 公開演奏誕生期における演奏家と聴衆の関係
M-5056 和田 剛 ㈱H建設設計 諫早湾干拓事業における生態・防災・耕地の総合的な形成を目指した環境デザイン

小嶋勝衛教授・根上彰生講師 ――― ・不動産科学専攻・
M-3010 唐牛 謙 ㈱長谷工コーポレーション(社会人大学院生) 都市居住促進化に向けて「宅地開発等指導要綱」がおよぼすコスト要因と建物形態に関する研究―東京都心部の民間分譲共同住宅を中心として―
M-3013 中澤 信頼 日本総合補償鑑定㈱(社会人大学院生) 非住居系用途地域内の分譲共同住宅による空間価値の研究
M-5001 新井 規志 朝日生命保険相互会社 都市整備事業諸制度の適用による低・未利用地の開発可能性に関する研究―経済的モデルシミュレーションを通して―
M-5003 池末 宏行 理工学研究所研究生 小規模開発に対する地方自治体の規制誘導方策に関する研究
―東京都27市の宅地開発等指導要綱の運用実態分析を通して―
M-5005 川島 和彦 日本大学大学院 景観整備の波及効果に関する研究
―長野県小布施町における拠点整備の事例分析を通して―
M-5007 谷澤 賢 千葉市役所 密集住宅市街地における共同建替えの促進に関する研究
―世田谷区太子堂の事例分析を中心に―
M-5009 田部井一嘉 ㈱熊谷組(社会人大学院生) 総合設計制度による容積率緩和が不動産投資事業計画に与える影響に関する研究―東京都区部のモデルシミュレーションを通して―

小嶋勝衛教授・三橋博巳助教授 ――― ・不動産科学専攻・
M-5012 森田 明男 森田ユニード保険サービス(社会人大学院生) 「企業」における防災計画の現状とあり方に関する研究
―防災計画書の分析を通して―

小嶋勝衛教授・佐藤 進講師				・不動産科学専攻・
M-4008	市来 正久	足立税務署 (社会人大学院生)	用途地域制度と土地税制の係わりに関する研究	
田中啓一教授				・不動産科学専攻・
M-5011	橋本 巖	㈱リゾン (社会人大学院生)	近郊都市における小規模な袋地、無道路地、不整形地の区画変更による利用価値創出に関する研究	
浅香勝輔教授				・不動産科学専攻・
M-5002	池谷 一也	鉄建建設㈱	伊豆半島における東海バス路線の役割とその変遷に関する基礎的研究	
横内憲久教授				・不動産科学専攻・
M-5010	中村 智広	ソニー㈱ (社会人大学院生)	都市沿岸域における開発と漁業との調整のあり方に関する研究	
M-5013	吉田 誠	森ビル㈱ (社会人大学院生)	超高層マンションからの眺望価値に関する研究	
三橋博巳助教授				・不動産科学専攻・
M-5004	猪原 直之	中野積算㈱	阪神・淡路大震災による建物の損害に関する研究	
M-5008	中島 健輔	昭和㈱	木造専用住宅のストックに関する研究	

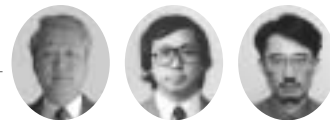
学部

学生番号左肩○印は各研究室中の指導担当を、氏名の右肩*印は企画経営コース、無印は建築学コースを表す。

学生番号	氏 名	就職先	論文題目	
石丸辰治教授・新谷隆弘助手				 
2148	鈴木 繁之	建設省建築研究所	モデル・フォロイング制御アルゴリズムに関する基礎的研究及び実験	
3025	泉 貴之	㈱熊谷組		
3226	林 宏幸	㈱長谷工コーポレーション		
5818	木ノ下英雄	東京電力㈱		
3056	大江禎一郎	日本大学大学院	安定・不安定結合型振り子を用いた制振装置の開発に関する研究	
3232	平林 宏樹	㈱新井組		
3064	岡田 繁和	共立建設㈱	ビル設計における効果的な制震性能を得る諸パラメータの検討	
3233	平野 賢司	日本大学大学院		
3113	呉 政道	日本大学大学院	固有直交関数展開による地盤応答特性の抽出について	
3278	森川 和彦	日本大学大学院		
3239	藤本 元久	日本大学大学院	震源モデルを含む確率過程入力地震動の作成	
3243	帆刈 大慈	大成建設㈱	倍力機構を用いた制振デバイスに関する基礎的研究	
3246	本間 剛	㈱日建ハウジングシステム		
榎並 昭教授・安達俊夫助教授・山田雅一助手				  
3103	香田 文慶	五洋建設㈱	長期荷重を受けるRC基礎梁の	
5809	遠藤 康朗	㈱エス・ティ・ティ ファシリティーズ	変形性状と耐力に関する実験的研究	
3118	斎藤洋一郎	日清ビジネスアシスト㈱	セメント改良土の強度・変形特性に関する研究	
5829	谷川原澄人	住友建設㈱	一室内配合試験と引張強度特性—	

3221	長谷川 健	大和ハウス工業株
2219	早瀬 知洋	青木建設株
3299	吉田 洋一	大和ハウス工業株
5833	服部 公哉	東洋建設株
5834	塙 隆憲	日本大学大学院

セメント改良土の強度・変形特性に関する研究
 —排水・非排水せん断特性—
 履歴エネルギーによる間隙水圧の評価法に関する研究
 間隙水圧挙動とスペクトル強度に関する研究



片桐正夫教授・大川三雄助手・重枝 豊助手

2180	張 強	株式会社熊谷組
2241	古木忽一郎	日成工事株
3042	上原 信也	海外留学
3070	尾又 健介	積水ハウス株
3092	木村 美歩	池原義郎建築設計事務所
3105	小鶴 文彦	一色建築設計事務所
3107	小林 文子	日本大学大学院
3180	近田 哲也	日本大学大学院
3186	恒本 昌哉	ホームインク株
3259	馬渡 龍	日本大学大学院
3271	三輪 悟	日本大学大学院
3279	矢木 敦	日本大学大学院
5811	大原 麻里	三井ホーム株

1920～37年北京建築における近代化に関する研究—その建築表現から見た近代化の特色について—
 ゴルフに見るハードとソフトの規定関係の研究
 —地域型パブリックコースによるゴルフの定着のために—
 建築における1968年の位置付けと環境問題についての考察
 これからの居住空間創造の一考察—住宅生産の工業化の変遷をもとに—
 鉄道の歴史と駅舎空間における動線について
 日本における構成主義の受容に関する史的考察
 大正・昭和戦前期の関西における住宅啓蒙活動とその時代背景
 日本庭園における植栽の手法に関する考察
 —江戸初期禅院枯山水庭園の植栽手法の変遷を通じて—
 吉田五十八の近代数寄屋研究—吉田五十八の建築に見られる意識—
 近代建築と近代思潮の考察
 芦葺き屋根の現代における保存に関する研究
 —これからどう残すか、現場取材をとおして、その問題点—
 蔵田周忠(1895～1966)の建築活動とその評価
 藤井厚二の住宅観と「日本趣味」に関する基礎的研究



木村 翔教授・井上勝夫助教授・橋本 修助手・荘美知子非常勤講師

3294	横山恵津子	日本大学大学院
3258	丸山 聡子	積水ハウス株
3041	上田 知香	東京ガス株
3192	戸塚恵美子	株)パナホーム埼玉中央
3214	奈良井 愛	株)メックデザイン インターナショナル
3040	上野 絵美	建設省関東地建
3132	佐藤 正之	日本大学大学院
3142	篠田 忠浩	日産建設株
3268	宮本 京子	株)東京舞台照明
3014	荒井 貢一	日本板硝子 環境アメニティ株
3147	菅井 義政	株)テクネット
2165	田島 稔也	積水ハウス株
3083	唐澤 亮	日本大学大学院
3110	小松 利光	大鉄工業株
3236	福山由美子	大和ハウス工業株
3276	守谷 浩幸	大和ハウス工業株
3077	片山 育子	鉄建建設株
3060	岡安 直美	株)佐藤秀
3256	松村 謙一	株)ミサワホーム静岡

残響音とエコーが
 音声の明瞭性に与える影響とその評価手法に関する研究
 ホール内音場における反射音の到来方向に着目した空間印象評価
 に関する研究
 イヤースピーカを用いた両耳受聴による音場合成手法に関する研究
 ソロ演奏者の舞台音場評価における演奏のしやすさと音響条件に
 関する研究
 住戸性能と居住者の生活実感との対応に関する研究
 集合住宅における屋外騒音に対する居住者意識の研究
 住宅床の歩行時における感覚評価実験と物理量との対応に関する
 研究

5801	阿部 恭子	財建材試験センター	}	人の歩行時における住宅床の振動応答特性に関する研究
3159	十河 章	松井建設㈱		
3208	中川 志郎	日本大学大学院		
3100	小池 直樹	大和ハウス工業㈱	}	ボイドスラブを対象としたインピーダンス特性に関する基礎的研究
3296	横溝 勲	積水ハウス㈱		

小嶋勝衛教授・根上彰生講師・宇於崎勝也助手



3004	浅川 貴史	日本大学大学院	}	景観整備事業が住民意識に与える影響に関する研究 —長野県小布施町における景観整備事例の分析を通して—
3047	浦島 靖子			
3108	小林 英樹	福島県庁		
3155	強谷 陽	㈱寺設計	}	駅周辺地区の街路網にみる商業施設分布の特徴に関する研究 —東急目蒲線の各駅を事例として—
3281	柳原 崇	㈱大京		
3008	阿部 隆志	日本大学大学院		
3021	石井 卓也	㈱浅沼組	}	学校敷地内におけるビオトープ空間に関する基礎的研究 —埼玉県ビオトープ空間づくりを支援する機関の活動に着目して—
3094	工藤由貴子			
3010	網谷 直樹	日本大学大学院		
3090	北島 祥雅	セキスイツーユーホーム東京㈱	}	都市型レンタサイクルシステムの利用促進に関する研究 —首都圏の導入事例における利用状況の分析を通して—
3126	桜井 和子	㈱中央住宅		
5805	井出美奈子	大和ハウス工業㈱		
3019	池田 文洋	日本大学大学院	}	地域振興のための「自然共生オフィス」の活用に関する研究 —国内外事例の分析を通して—
3078	片倉 幹生	北陸セキスイハイム㈱		
3189	豊島健太郎	㈱銭高組		
3195	中井 久仁	㈱大京	}	特定街区制度を用いた歴史的建造物の保存に関する研究 —容積率移転に着目して—
3074	笠 恵太郎	大和ハウス工業㈱		
3266	峯尾 秀隆	㈱みなとみらい開発センター		
3146	周 長園	TGBデザイン事務所	}	斜面都市の住環境整備に関する研究 —道路構成と居住継続意向に着目して—
5808	鶴澤 妙	㈱リクルートコスモス		
5830	田牧 奈緒			

斎藤公男教授・黒木二三夫(短大)講師・岡田 章助手



3012	荒川 浩克	前田建設工業㈱	}	テンショントラスアーチの構造特性に関する実験的研究
3257	松崎 彦英	日本大学大学院		
3270	宮井 崇	大成建設㈱		
3058	大野 貴信	日本大学大学院	}	テンション・グリッド・ドームの力学特性に関する実験的研究 —TGDの可能性—
3080	金子 恭子	㈱構造設計プラス・ワン		
3218	萩原 隆志	松本構造設計室		
3272	村上 隆	日本大学大学院	}	競技場スタンドを覆う屋根構造の構造計画に関する研究 —テンション材の有効性および簡易模型を用いた風洞実験の適用性—
3124	酒田 国靖	㈱リクルートコスモス		
3163	高須 智宏	西松建設㈱		
5815	金田 崇興	日本大学大学院	}	ドームの歴史と最近のドームコンペにみる技術の変遷とこれから
3181	竹馬 基人	安宅設計		
3206	中村 伸	日本大学大学院		
4819	城間 郁男	鈴木伸哉構造設計事務所	}	MJG システムの適用性に関する実験的研究
3250	松田 仁	日本大学大学院		
3275	森地 澄枝	軽金属商工㈱		

3282	山崎 仁聡	大和ハウス工業㈱	}	アルミニウムを用いたストリング補強アーチ構造に関する実験的研究
5810	大塚 一成	日本大学大学院		
5807	井上 麻紀	三井木材工業㈱	}	木造張弦梁構造の継手接合部に関する実験的研究
0280	三田村康司	ZEN建築構造事務所		

関口克明教授

3091	木部 彰久	旭化成ホームズ㈱	}	ステージ形態の客席音場に対する音響効果に関する基礎的検討 —縮尺音響模型によるステージ難壇の音響効果を物理量と主観量の対応から探る—
3212	那須 信行	㈱パナグランデ千葉		
3240	古澤由布子	住商建材㈱		
5816	樫根 麻紀	㈱システムアーキテクチャ		
3084	川浪 大輔	日本大学大学院	}	建築環境評価の生理応答の導入に関する研究 —車椅子利用者の点字ブロック走行時における脳波の応答の影響—
3241	古渡 美穂	㈱一条工務店		
5825	鈴木 秀一	大和ハウス工業㈱		
5840	吉田 貴子	三和ホーム㈱		
3013	荒井 信夫	坂戸市役所	}	色彩計画への工学的支援に関する基礎的研究
3158	関 麻衣子	㈱船場		
3219	橋本由美子	大和ハウス工業㈱		
5802	荒川 典	近藤建設㈱		
3081	加納 史歳	㈱ミサワホーム静岡	}	集合住宅の居住下における複合環境の実態と評価・測定法に関する検討
3095	久保田 毅	積水ハウス㈱		
3174	田中 和之	日本大学大学院		
3216	西元 久枝	日本調理機㈱		
5838	湯目 素大	大和団地㈱		

高宮真介教授・佐藤慎也助手

3001	青木あずさ	日本大学大学院	}	都市空間における子供の遊び場について —羽根木プレーパークにみる子供の遊び場作りと遊び空間に関する研究—
3003	芥川 文恵	日本大学大学院		
3088	菅野 二美	日本大学大学院	}	18-19世紀における美術館・博物館建築の成立 —Boullée・John Soane・Klenze・Shinkelらの新たな試み—
3117	斉藤 一郎	㈱松田平田		
3131	佐々木 郁		}	C・アレグザンダー研究—理論と実践の矛盾と展開— 東京湾における親水護岸からみた水辺空間の研究 都市型ホテルのパブリック領域の研究 —プライベート空間への手法の事例研究—
3187	常川 貴扶	㈱入江三宅設計事務所		
3196	中島 祐一	日本大学大学院	}	都市空間における、アメニティー空間のありかた—水空間の演出— 神奈川県立図書館・音楽堂における文化的価値に関する研究 メタボリズム—建築家による都市計画とその後—
3249	町田有紀枝	東京工業大学大学院		
5814	奥山丹奈子	㈱入江三宅設計事務所	}	茶室からみる現代の日本的空間 バルセロナ万博ドイツ館の作品研究—空間構成とその素材について— 美術館・博物館における子どものための施設についての研究 —これからの美術館・博物館（ナルドレンズ・ミュージアム）の在り方—
5821	後藤 栄子			
5826	関 伸行			

野村 歓教授・八藤後 猛助手

3028	伊藤 伸光	積水ハウス㈱	}	高齢化対応住宅用機器・部品の基盤整備に関する研究
3031	猪端 哲朗	㈱オズ・アトリエ		
3061	岡部 仁吾	トヨタホーム東京㈱		
3251	松本 健一	積水ハウス㈱		
3297	横山 朋子	千葉ミサワホーム㈱		

3049	江川 智子	神奈川県住宅供給公社	}	伊勢市障害者等環境生活環境整備基盤調査(実地調査)及び研究
3168	高橋 英如	日本大学大学院		
3269	深山 葉子			
9086	黒沢 英正			
3059	大野 恭子	㈱扶桑レクセル	}	高齢者・障害者の浴室改造における身体的・経済的効果に関する計画
3143	島崎 武	日本大学大学院		
3224	土生多恵子	日本大学大学院		
5828	竹内 一正	積水ハウス㈱		
3172	多田 修作	積水ハウス㈱	}	医療施設におけるリハビリテーション機器の利用状況に関する研究
3223	花岡 秀直	日本大学大学院		
3211	中村 守宏	日本大学大学院		
3231	樋口 吉正	クボタハウス㈱	}	住宅照明環境が高齢者に与える心理的影響に関する研究
			}	在宅サービス圏域としての中学校区・小学校区の妥当性 ―世田谷区におけるケーススタディ
			}	高齢者の外出時の身体的負担からみた公共交通機関のあり方に関する研究

半貫敏夫教授・森泉和人助手

3016	飯田 裕	㈱クボタハウス	}	二次曲げ効果を考慮した弾塑性骨組解析及び地震応答解析に関する研究
3122	酒井 誠	トステム㈱		
3123	境 俊英	太平工業㈱		
3157	関野 潤	㈱藤木工務店		
3295	横山 渡	日本大学大学院	}	個別要素法による屋根上積雪の滑落・堆積シミュレーション
5812	岡田 有香	斎藤建築設計事務所		
2282	横山 智	三平建設㈱		
3018	五十嵐巨樹	大木建設㈱		
3027	伊藤 直	㈱大木建設	}	粘弾性有限要素法による積雪沈降荷重の検討
5822	小林 篤志	日本大学大学院		
3175	田中 寿幸	日本大学大学院		
3135	佐藤 富夫	積水ハウス㈱		
2055	大塚 拓	㈱リクルートコスモス	}	アイスドーム構造の弱点改良に関する実験的研究
2204	西 裕司	平岩建設㈱		
3151	鈴木 俊光	大和ハウス工業㈱		
3177	田中 義之	㈱中央住宅		
			}	南極昭和基地管理棟の風振動に関する考察

平山善吉教授・斉藤俊一助手

3011	荒井 淳	日本大学大学院	}	集成材とLVL材を用いたF&P(フレーム・アンド・パネル)構法に関する実験的研究
3062	岡田 寿夫	馬淵建設㈱		
3066	長内 俊治	㈱東急コミュニティー		
3069	小原 豊	旭化成ホームズ㈱		
3076	粕谷 誠	㈱ハザマ		
3086	川村 智久	積水ハウス㈱		
3098	黒田 敬	大成建設㈱		
3099	黒澤 誠宏	大和ハウス工業㈱		
3217	西井 孝之	㈱五建設事務所		
3235	福本 尚哉	佐田建設㈱		
3254	松田 拓也	㈱竹中工務店		
3262	水落 潤	戸田建設㈱		
3312	渡邊 健一	鹿島建設㈱		

本岡順二郎教授・中山 優(短大)講師



3005	東 三千彦	川田工業(株)	複合化工法を用いたプレストレストコンクリート梁の力学的挙動に関する実験的研究
3034	伊部 重人	大和ハウス工業(株)	
3051	大槻 孝明	オリエンタル建設(株)	
3116	斉藤こすえ	日本大学大学院	
3129	桜木 美海	(株)大林組	
3138	寒川 剛	飛鳥建設(株)	複合化工法を用いたプレストレストコンクリート梁の変形性状に関する実験的研究
3144	清水 紀亮	(株)千葉ミサワホーム	
3145	清水 雄一	住友建設(株)	
3150	鈴木 曜	ナショナル住宅産業(株)	
3183	辻 忠彦	(株)長谷工コーポレーション	
3220	蓮見 修	鹿島建設(株)	矩形開口を有するプレストレストコンクリート梁の強度と変形性状に関する実験的研究(連続開口を有する場合)
3280	屋田 研郎	日本大学大学院	
5803	池内 直樹	りんかい建設(株)	
5813	荻野 直世	テイボングループ	
5817	川村 聖乃	平成建設(株)	
5827	高橋 麻記	(株)熊谷組	
5831	土屋 智司	東レ建設(株)	

吉田あきら教授・蜂巢浩生助手



3026	井田ひろ美	クリナップ(株)	高齢者を対象とした居住施設における 温熱環境の実態調査 その4—各種老人ホームにおける実測調査—
3055	大川 進二	三建設工業(株)	
3067	小野沢淳子	日本クレスコ(株)	
3102	高路 絵巳	(株)千葉ミサワホーム	
3115	斎藤 陽子	(株)日本エアコンセンター	
3160	ソンチョウヨウ		身体障害者の温熱環境について —ASHRAE STANDARDにおける頸髄損傷者の快適性—
3229	張ヶ谷昌代	松戸市役所	
3247	眞島 貴行	(株)ベルグ	
3165	高橋 計之	(株)環境エンジニアリング	気流分布計画に組み込まれた室内形状の構成について
5832	浪川 由美	松下電工SFG	

若色峰郎教授・渡辺富雄助手・小林美夫(海建)教授



3015	栗田 潤	日本大学大学院	駅舎建築再考 —過去10年間の日本の事例研究を通して—
3037	岩田 園子	三菱倉庫(株)	オフィスビルに関する研究 —オフィスレイアウトからみた事務空間の動きについて—
3038	岩田 良和	日本大学大学院	バウハウスに関する研究 —ヨハネス・イッテンとモホリ・ナギの理念と活動を通して—
3050	王 保彬	永山建築設計事務所	ホスピスに関する研究 —日本における29施設の事例と3施設のインタビューを通して—
3052	大野 博史	日本大学大学院	Alvar Aaltoとホール—調和という観点からみるA.アアルト再考—
3114	後藤 志歩	トヨタホーム(名古屋)	地域施設からみたごみ焼却施設の計画に関する研究 —東京都における地域施設の余熱利用の現状について—
3171	田島麻美子	ユニバーサル設計	オフィスビルのリフレッシュスペースに関する事例研究
3209	中野 純	(株)穴吹工務店	集合住宅の共用廊下周りの利用に関する研究 —あふれ出し調査からみた公営住宅の実態—
3215	錦織 弘	村上設計	京都町屋「格子」に関する研究—現代建築への展開—

3245	星野 朋子	三井農林株	ランドスケープアーキテクチュアに関する基礎的研究 —環境要素をデザインに導入した事例を通して—
3248	町田 巖	日本大学大学院	戦後の我国の教会建築における空間概念に関する研究 —礼拝堂空間の変遷について—
3252	松島 孝夫	日本大学大学院	都市空間における水辺の公開空地に関する研究
3261	水野 純也	平安設計	中庭型住居の空間構成に関する研究—町屋の空間構成を通じて—
3303	米田 岳	OAC設計	屋外住空間の研究—Bruno Tautのベルリン・ジードルンクの事例研究—
5804	石黒 嘉晃	奥野建築設計事務所	夜間景観の計画技法に関する研究—横浜市のライトアップ事例を通じて—
5819	木村 優子	㈱エクサス	小・中学校におけるオープンスペースの計画と学習展開に関する研究 —最近の4つの事例を通して—
5824	荘司 和樹	アーキノーバ建築研究所	歩行者空間の変遷からみる都市空間の様相

岡村武士助教授

3149	直篁 拓也	富士ハウス株	} 建築構造工学に関する研究—構造Form A. ガウディー
0303	山野 修史	㈱荒井組	



白井伸明助教授・森泉和人助手

3035	今市 公太	北野建設株	} 超大型鉄筋コンクリート梁のせん断強度の 寸法効果に関する実験的研究
3111	小森 善隆	㈱植木組	
3242	古橋 輝彦	木内建設株	
3089	雁瀬 泰弘	大成建設株	} 粒子モデルを用いたコンクリート構造物の破壊解析
3096	久保 陽	㈱熊谷組	
3065	奥森 敦洋	大成建設株	} 既存RC造建物の耐震性能に関する研究
3017	飯部 政光	㈱平和	
3119	佐伯 昭博	日本大学大学院	} 正負繰返し荷重を受けるRC造耐震壁の非線形有限要素法による 解析
2271	矢作 公雄	積水ハウス株	
3197	長妻 宏明	東急建設株	} 兵庫県南部地震にて被災したRC構造物の損傷解析
3201	中山 亮	松井建設株	



関沢 勝一助教授

3068	小野 健	日本大学大学院	機械の美学とテクノロジー
3073	陸山 衣	㈱OAC設計	地域コミュニティにおける学校の位置づけ
3087	川原塚彩子	㈱丹青社	夢の世界へ—イメージからのデザイン—
3130	佐々木英人		快適な居心地に必要な環境と空間
3134	佐藤 通昭	㈱山崎建築設計事務所	障害児のための学習空間について
3153	砂長 裕子	日本大学大学院	低層集合住宅の共有空間に関する研究
3185	土田耕太郎	日本大学大学院	日本におけるカトリック教会堂の研究
3188	津留崎鎮生	泉幸甫建築研究所	工業化住宅について
3253	松井 邦人		建築型に関する研究
3263	溝畑 恭秀	ノーションデザイン株	情報空間と人間の認知
3291	山本真理子	㈱船場	ミース ファン デル ローエとヴァシリー カンディンスキー
3309	渡辺 麻乃	共同設計株	小学校における精神薄弱児学級の学習空間に関する研究



三橋博巳助教授

3006	東 輝	㈱一条工務店	} 火災時の避難行動特性に関する研究
3048	宇留間貴士	積水ハウス株	
3244	星野 秀一	㈱大林組	

*印は旧岸谷研究室



3032	猪瀬 孝一	茨城セキスイハイム	阪神・淡路大震災における建物被害に関する研究 —神戸市灘区を対象として—
3033	井上 智	㈱トステム	
3112	後藤 孝史	㈱東急コミュニティ	
3120	五月女 敦	大和団地㈱	
3148	杉山 靖洋	㈱鈴木工務店	
2051	及川 和幸	ニッセキハウス工業㈱	神戸市の地域防災計画に関する研究
3170	竹内 洋太	㈱松下産業	
3179	丹下 勝之	㈱森本組	
3194	内藤 博隆	自営	
3178	田中 克樹	若築建設㈱	
3260	三島 智幸	㈱熊谷組	建築物のバルコニー部における雪の吹きだまりに関する研究
3274	森本 和樹	日本大学大学院	
3290	山柿 圭三	古久根建設㈱	
3306	若井 真幸	日本大学大学院	

本杉省三助教授・佐藤慎也助手

3029	伊藤 眞史	㈱日本構造エンジニアリング (テクノブリッジNKE)	ライブハウスの客席についての研究 —局所人口密度について—
3072	角田 泰孝	日本大学大学院	ホール施設の都市空間への接し方 —ホール施設の外部空間(広場)に関する研究—
3106	小西 昌太	吉岡建築事務所	村野藤吾の作品において、二街路に面したファッサードの研究
3133	佐藤 雄彦	山崎建築事務所	下町の住環境についての分析 —台東区谷中地域の住居に見られるコミュニケーションシステムについて—
3154	砂田 吉士		戦後の集合住宅の間取り変遷—東京都住宅供給公社 2DK住宅について—
3176	田中 宏明	日本大学大学院	Isamu Noguchi—『こどもの国』の記録を通じて—
3198	中野 雅鉄	㈱池下設計	アントニン・レーモンドの木造教会建築におけるデザイン原理について
3202	永尾 友和	㈱布谷	“創造理念” —アッバス・キアロスミタを通じて—
3207	中原 慶之	日本大学大学院	子供の遊び環境に関する研究—子供の遊びから見た公園のあり方—
3255	松浦 大輔		住宅における開口部の研究
3288	山竹 哲史	日本大学大学院	東京都区部都市公園の防災上の役割と環境共生への提案
3304	李 成熙		教会における聖堂及び礼拝堂の空間演出
3307	若林 将則	㈱共立建築設計事務所	劇場を中心とした町並みの空間の考察
3311	渡部健太郎		住居から美術館に変化した建築の変遷に対する考察
5820	小泉さおり		屋外上演施設・ホールの現状についての調査研究

石田道孝講師

2015	庵谷 佳徳		駅舎建築におけるモビリティ・ハンデキャップ者への 配慮についての研究
3036	伊豫 賢司	日本大学大学院	福祉機器使用を考慮した住環境整備に関する研究
3162	高橋 麻子	㈱コクヨ	在宅サービスセンターの新しい動向から見た建築計画の提案
3205	長友 賢蔵	大和ハウス工業㈱	障害者を考慮した調理空間の計画に関する研究
3237	藤川 晋哉	三井ホーム㈱	高齢者集合住宅の共用空間のあり方に関する研究
3264	三森 隆弘	㈱中央住宅	戸建高齢者住宅の設計指針・基準に関する研究
3267	蓑輪 俊行	神奈川県住宅供給公社	公的高齢者住宅に関する研究
3293	湯本健次郎	大都販売㈱	高齢者の身体機能と入浴空間に関する研究
3302	米倉 昭	㈱中央住宅	公的総合福祉施設の建築計画に関する研究

5835 松澤佐世子 ダイア建設 高齢者・障害者を考慮した駅舎建築におけるサイン計画に関する研究

宇杉和夫講師

- | | | | | |
|------|-------|-----------|---|--------------------------------|
| 3045 | 馬野 宏貴 | 日本大学大学院 | } | 都市景観表彰制度のあり方の研究 |
| 3071 | 小山 正邦 | 大和ハウス工業株 | | —埼玉県下を事例として— |
| 3063 | 岡本 卓弥 | 杉原設計事務所 | | 水辺の建築空間に関する研究 |
| 3121 | 堺井 祐司 | 株丹青社 | | 屋台研究—都市空間における屋台のあり方— |
| 3125 | 坂口 幸大 | 積水ハウス株 | | 地域住宅計画(HOPE計画)に関する研究 |
| | | | | —千葉県7市町村に対するアンケート— |
| 3166 | 関塚 宏昌 | 永山建築設計事務所 | | コーポラティブハウスの研究 |
| 3289 | 八町 公章 | | | 多方向アクセス型集合住宅に関する研究 |
| 3300 | 吉澤 貴行 | 株一条工務店 | | 集合住宅・住宅団地における環境共生住宅の計画技術に関する研究 |
| 3310 | 渡辺 賢維 | | | 超高層建築とその展望スペース及び眺望に関する研究 |



柳田 武講師

- | | | | | |
|------|-------|-----------------------|---|--------------------------------------|
| 3039 | 岩室 華奈 | 南海辰村建設株 | } | Mini CAD(2次元・3次元)の使いやすい活用ガイド |
| 3161 | 高橋美佳子 | 株高橋建設 | | |
| 3141 | 穴戸 祐之 | 株福田組 | } | 建築の計画・設計におけるWWW情報の活用 |
| 5823 | 坂井いづみ | 三井建設株 | | |
| 3164 | 高橋 祐子 | 理工学研究所研究生 | } | 3次元CAD/CGによる簡易デザインシミュレーション手法の提案 |
| 3308 | 渡辺 剛 | 山形建設株 | | |
| 3184 | 土屋 大悟 | 滝沢建設株 | } | —Auto CAD LT 95入門マニュアルと3D Studioの応用— |
| 3265 | 皆川 新恵 | 株ダイエーフォート
エンタープライズ | | |
| 5806 | 伊能 慶子 | 株ティボン | } | 建築CADにおける線図形のデータ交換について |
| 3191 | 徳田謙一郎 | 株熊谷組 | | |
| 3283 | 山口 智美 | 旭化成ホームズ株 | } | 建築CADにおける異ソフト間のデータ交換について |
| 5839 | 吉川 栄治 | 日本大学大学院 | | |
| | | | | Quick Time VRによる建築空間の仮想体験について |



横山 清(短大)教授・(岸谷孝一教授)

- | | | | | |
|------|-------|----------|---|--------------------------------|
| 3022 | 石田 一郎 | 大和商工リース株 | } | フローイングコンクリートの初期収縮・ひびわれに関する実験研究 |
| 3093 | 木村淳一郎 | 東急建設株 | | |
| 3173 | 田中 久勝 | 日本大学大学院 | | |



短期大学部

学生番号	氏名	就職先・進路先	卒業設計テーマ	学生番号	氏名	就職先・進路先	卒業設計テーマ
5001	赤羽 英樹	理工(建築)	リハビリセンター	5009	遠藤 達雄	理工(海建)	インド洋の珊瑚礁共和国 (ビーチリゾート)
5002	天野美代子	理工(建築)	過去、未来そして現在の 住宅を考える	5010	大城 光子	理工(建築)	活気のあるまちづくり
5003	石引有香里	理工(海建)	納骨堂	5011	大和田真道	理工(建築)	仮設テントと防災公園
5004	石渡 光輔	理工(海建)	Soft Museum	5012	岡田 秀治	理工(建築)	川崎臨海部再計画 東京湾の未来に向かって—
5005	市川幸一郎		国立国会図書館別館	5013	小澤稚絵子	角丸建設	Diamond
5006	今井 睦美	理工(建築)	伝統美・数寄屋の住空間	5014	小高 百恵	株幹設計	farm of city
5007	岩永 浩典	理工(海建)	野球場	5015	小野川英樹	株富士建	A METROPOLIS OF ART —芸術の中心地—
5008	宇田川えみ子	理工(海建)	都市の再生・横浜の歴史的 建築物				

5016	織内 紀江	理工(建築)	Parade	5059	高田 篤史	高田建設	研修センター
5017	加賀 隆之	理工(海建)	NEW LANDMARK	5060	高橋 友則	東海大学	首都圏における レクリエーション施設
5018	香川 英二	理工(海建)	ロストワールド	5061	高柳 奏子	理工(建築)	Memorial Port 一港に甦る街の記憶—
5019	柿木 香織		高齢者向けサービスハウス	5062	竹山 博子	㈱光陽	“共存”世代を越えて
5020	加崎 孝文		カフェテラス(膜構造)	5063	田代明日香	フォルム設計	集合住宅
5021	柏木 千鶴	理工(建築)	Road for tomorrow	5064	田嶋 直子	㈱計画工房	マリナーパーク計画 (水族館の設計)
5022	片岡 秀臣	理工(海建)	国立駅南口周辺地区再整備	5065	チャンスイティノ ンプラウイット	工(建築)	日タイ文化交流会館
5023	片岡 冬佳	理工(建築)	ふじみ駅再開発計画	5066	土肥 真澄		ベースボールスタジアム
5024	片桐理恵子	理工(建築)	駅と駅を結ぶ連絡通路	5067	中井 直人	理工(海建)	飛鳥の現代風茶室
5025	角谷 大輔	理工(建築)	和風建築	5068	中島 悟史		MAKE ROAD
5026	金木美千子	匠都市建築 設計事務所	廃棄物による余熱で 農園をつくる	5069	中村 綾	コロナ技研㈱	私の住む街、その駅前
5027	川名加奈子		強く生きる	5070	長塩 伸吾		綾瀬駅東口再開発
5028	北原 美穂	理工(建築)	しるばあはうじんぐプラン	5071	生井 勝啓	理工(海建)	手賀沼浄化施設
5029	木ノ内佳苗	理工(建築)	地域との対話	5073	橋場まゆ子	理工(建築)	高齢者のための福祉施設
5031	草間 英明	理工(海建)	二世帯住宅	5074	長谷川能之		コンサートホール
5033	公文 崇		天使のラブソング	5075	花澤 弘昌	齊藤建築 設計事務所	potential —子供達のための創造空間
5034	小関 弘二	理工(建築)	PCを用いた サッカースタジアム	5076	原 健一郎	理工(建築)	スポーツホール
5035	小林 善子	㈱秀光	光の教会	5077	樋川あかね	理工(海建)	HAG~ONES HEARTY THANKS~ 「生活に密着した空間での 自己探求と地域交流」
5036	駒形 力	工(建築)	Snow Cave(室内スキー場)	5078	日野 道子	理工(海建)	災害医療センター
5037	齊藤 俊信	理工(海建)	シンボルタワー	5081	譜久里 薫	理工(海建)	越後湯沢駅前広場開発
5038	齊藤 弘海		葉山マリーナ再開発	5082	藤井 純子	理工(海建)	美術館
5039	坂井真沙子	理工(建築)	With the Sunset	5083	布施 拓也	理工(海建)	矢切の渡しプロジェクト
5040	坂本 知美	留学	日本の駅	5084	二川 一茂	㈱NOVAS	人が激む場所
5041	作田 由佳		Interchange of Garden	5085	舟橋 信隆	理工(海建)	二世帯住宅・賃貸アパート 複合住宅
5042	桜井 裕子	齊藤建築 設計事務所	No direction	5086	ページョンビョ	時田工務店	空間創造(川再開発)
5044	佐藤 圭	理工(建築)	Information Market	5087	前田 朋江	理工(建築)	湘南国際村宿泊施設
5045	沢石 薫		SPACE WAY(地下道)	5088	牧野 純司	理工(建築)	あなたは赤？青？
5046	澤田 真美	理工(建築)	JR岐阜駅再開発 CONNECTION —駅と人と町へのつながり—	5089	松元 智子	理工(建築)	橋上のコミュニケーション 空間
5047	塩川 竜也	千曲建設㈱	スキー場施設	5090	村上 雄一	工(建築)	学校建築のバリアフリー化
5048	篠崎 佳苗	生産工(建築)	歴史的建築物保存計画 (千葉教会堂)	5091	村松 弘充	理工(建築)	駿河コンベンションホール
5049	清水 一行	理工(海建)	VIRUS —情報を内包した空間の提案—	5092	森 靖暁	八雲建設㈱	小泊村低層集合住宅地計画
5050	清水 雅人	理工(建築)	かいわい(界限)へ	5093	森山 太樹		二世帯住宅
5051	下間 大輔	日本ジャーナ リズム専門学校	美術館(忘れかけた風景)	5094	諸星 勇一	理工(建築)	構造フォルム and 水上ステージ
5052	庄司 和正	理工(海建)	快適生活空間都市の モデルケースとして	5095	矢崎 晴美	理工(海建)	川辺の MUSEUM
5053	鈴木佳世子		未知なる世界への探索 —古代との融合—	5096	柳井 千春	理工(海建)	商業地域センター
5054	鈴木智恵子	工(建築)	active	5097	山口智恵子	理工(海建)	平和資料館
5055	鈴木 裕行	理工(建築)	Shopping mall —光の世界へ—	5098	山本 好美	理工(建築)	PROGRESS HOUSE FOR ARTIST
5056	須田 詠子	理工(建築)	The movement of museum	5099	湯浅 哲廣		メガストラクチャーによる 超高層
5057	住吉 将希	工(建築)	生まれてくる子ども達へ				
5058	関根 潔	㈱イシマ	遊歩空間				

5100	横山 史親	理工(海建)	総合公園内の温水プール	5106	渡辺 博之	理工(建築)	身障者に優しい美術館
5101	吉田 愛子	理工(建築)	やすらぎセンター	4013	伊藤 克		
5102	吉永 寛		都市のパイプ	4025	大塚 英人	理工(海建)	
5103	吉原 一輝	理工(海建)	風と時の狭間	4076	塚本 剛	理工(建築)	ACTIVITY STATION
5105	渡辺 隆敏	理工(建築)	メガストラクチャーによる超高層建築	3049	坂西 亘		メディア総合施設と構造の提案

■益田勲氏、木村翔教授、井上勝夫助教授、矢田雅一氏連名の原著論文「有効振動質量と多点加震モデルを用いた軌道上建物の振動影響予測に関する研究」が、日本建築学会計画系論文集 No.491 (1997.1) に掲載された。

■株式会社組技術研究所の稲留康一氏、木村真也氏、西岡計成氏、飛松幸彦氏及び木村翔教授連名の原著論文「背後空気層が吸音材料の吸音特性に及ぼす影響に関する研究」が日本建築学会技術報告集 No. 3 (1996.12) に掲載された。

■吉野泰子短大専任講師は関口克明教授と連名で、平成 8 年 12 月 5、6 日に福岡で開催された第 20 回人間・生活環境系シンポジウムにおいて「都市近郊型 RC 造中層集合住宅における複合環境の実態について一居住下における 4 ケ年の経時変化の傾向と評価への課題」と題する研究発表を行った。

また、平成 9 年 1 月 8 日～10 日、釧路で開催された国際会議「PLEA1997 KUSHIRO」(Passive and Low Energy Architecture)において、Environmental Actual State of Daily Life Style in Multifamily Dwellings for about 4 Years Close to Urban Communities と題する研究発表を行った。

■建築史・論研究室(片桐正夫教授・重枝豊助手)が取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡の調査・研究・修復協力について、これまで各種シンポジウム発表、出版、論文などを通じてその活動の成果を発表してきたが、いよいよ今年よりアンコール・ワット西参道の修復工事に入ることになった。このような世界文化遺産の調査、研究

教室ぷろむなード

に興味のある学生の参加を期待しているとのこと。(窓口は片桐教授)

■平成 9 年 4 月 1 日発令の人事により教室では次の先生がたが昇格した。

教授 白井 伸明

教授 関澤 勝一

助教授 根上 彰生

■本年 4 月より教室の非常勤講師の先生がたが次のように交代した(敬称略)。

○新任非常勤講師(担当科目)

川口とし子

(建築設計製図Ⅰ, 設計演習Ⅰ)

アストリッド クライン

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

松岡辰郎(設計演習Ⅰ, Ⅱ)

田島夏樹

(基礎製図法, 建築設計製図Ⅰ)

羽生修二(近代建築史Ⅱ)

前野 堯(近代建築史Ⅰ)

中村八郎(防災計画Ⅱ)

丸山英気(大学院, 不動産法律特論Ⅱ)

菅原進一(大学院, 防災工学特論)

○退任非常勤講師(担当科目)

玄・ベルトー・進米

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

御手洗昌子

(建築設計製図Ⅰ, 設計演習Ⅰ)

本山卓夫(設計演習Ⅰ, Ⅱ)

大江 匡

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

黒沢 隆

(近代建築史Ⅱ, 特別講義・デザイン論)

吉田鋼市(近代建築史Ⅰ)

玉田弘毅(大学院, 不動産法律特論Ⅱ)

入江正之(大学院, 建築歴史意匠特論)

■短大建築コースの人事異動

・平成 9 年 4 月より、羽入敏樹助手が新たに着任した。

・非常勤講師の先生方については、次のように交代となった。

() 内は担当科目。敬称略。

〈新任〉浜島一成(建築史Ⅰ)

熊倉洋介(建築設計製図Ⅰ)

〈退任〉内山 哲(建築史Ⅰ)

松本 清(建築設計製図Ⅱ, Ⅲ)

■ながい間、応用力学、土質・基礎工学を担当された榎並昭教授がさる 1 月 10 日に定年で退職、教授会の推薦により 1 月 16 日付けで日本大学名誉教授の称号が授与された。

■3 月 25 日にめでたく卒業した学生数はそれぞれ次の通りである。

建築学科

(建築コース, 企画経営コース) 308 名

短期大学部建設学科建築コース 103 名

大学院建築学専攻

博士前期(修士)課程 57 名

博士後期課程 1 名

同 不動産専攻

博士前期(修士)課程 15 名

博士後期課程 1 名

■独身貴族の特権をほしいままにして他からうらやましがられていた蜂巢浩生助手が、さる 3 月 15 日(友引)に吉田あきら教授夫妻の媒酌により山の上ホテルで人前挙式。教室全員から祝福を受けた。

■新田収氏と野村勲教授連名の原著論文「重症心身障害成人に対する環境整備の類型化」が日本建築学会計画系論文集 No.492 (1997.2) に掲載された。

●駿建目次

(1997.4 Vol.25 No.1 通巻 97 号)

建築学科履修要項	2	平成 8 年度建築学科就職状況	16
短期大学部建築コース履修要項	8	平成 8 年度修了生・卒業生各賞受賞者一覧	21
専門科目使用教科書並びに参考書	10	卒業生就職先・研究課題一覧	22
私と作品	14	教室ぷろむなード	36

『駿建』 発行者・木村 翔：千代田区神田駿河台 1-8 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724

■平成 9 年度編集委員：半貫敏夫・井上勝夫・宇杉和夫・蜂巢浩生・田所辰之助

■印刷：奥村印刷(株)

5100	横山 史親	理工(海建)	総合公園内の温水プール	5106	渡辺 博之	理工(建築)	身障者に優しい美術館
5101	吉田 愛子	理工(建築)	やすらぎセンター	4013	伊藤 克		
5102	吉永 寛		都市のパイプ	4025	大塚 英人	理工(海建)	
5103	吉原 一輝	理工(海建)	風と時の狭間	4076	塚本 剛	理工(建築)	ACTIVITY STATION
5105	渡辺 隆敏	理工(建築)	メガストラクチャーによる超高層建築	3049	坂西 亘		メディア総合施設と構造の提案

■益田勲氏、木村翔教授、井上勝夫助教授、矢田雅一氏連名の原著論文「有効振動質量と多点加震モデルを用いた軌道上建物の振動影響予測に関する研究」が、日本建築学会計画系論文集 No.491 (1997.1) に掲載された。

■株式会社組技術研究所の稲留康一氏、木村真也氏、西岡計成氏、飛松幸彦氏及び木村翔教授連名の原著論文「背後空気層が吸音材料の吸音特性に及ぼす影響に関する研究」が日本建築学会技術報告集 No. 3 (1996.12) に掲載された。

■吉野泰子短大専任講師は関口克明教授と連名で、平成 8 年 12 月 5、6 日に福岡で開催された第 20 回人間・生活環境系シンポジウムにおいて「都市近郊型 RC 造中層集合住宅における複合環境の実態について一居住下における 4 ケ年の経時変化の傾向と評価への課題」と題する研究発表を行った。

また、平成 9 年 1 月 8 日～10 日、釧路で開催された国際会議「PLEA1997 KUSHIRO」(Passive and Low Energy Architecture)において、Environmental Actual State of Daily Life Style in Multifamily Dwellings for about 4 Years Close to Urban Communities と題する研究発表を行った。

■建築史・論研究室(片桐正夫教授・重枝豊助手)が取り組んできたカンボジアのアンコール遺跡の調査・研究・修復協力について、これまで各種シンポジウム発表、出版、論文などを通じてその活動の成果を発表してきたが、いよいよ今年よりアンコール・ワット西参道の修復工事に入るようになった。このような世界文化遺産の調査、研究

教室ぷろむなード

に興味のある学生の参加を期待しているとのこと。(窓口は片桐教授)

■平成 9 年 4 月 1 日発令の人事により教室では次の先生がたが昇格した。

教授 白井 伸明

教授 関澤 勝一

助教授 根上 彰生

■本年 4 月より教室の非常勤講師の先生がたが次のように交代した(敬称略)。

○新任非常勤講師(担当科目)

川口とし子

(建築設計製図Ⅰ, 設計演習Ⅰ)

アストリッド クライン

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

松岡辰郎(設計演習Ⅰ, Ⅱ)

田島夏樹

(基礎製図法, 建築設計製図Ⅰ)

羽生修二(近代建築史Ⅱ)

前野 堯(近代建築史Ⅰ)

中村八郎(防災計画Ⅱ)

丸山英気(大学院, 不動産法律特論Ⅱ)

菅原進一(大学院, 防災工学特論)

○退任非常勤講師(担当科目)

玄・ベルトー・進米

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

御手洗昌子

(建築設計製図Ⅰ, 設計演習Ⅰ)

本山卓夫(設計演習Ⅰ, Ⅱ)

大江 匡

(建築設計製図Ⅲ, 設計演習Ⅰ)

黒沢 隆

(近代建築史Ⅱ, 特別講義・デザイン論)

吉田鋼市(近代建築史Ⅰ)

玉田弘毅(大学院, 不動産法律特論Ⅱ)

入江正之(大学院, 建築歴史意匠特論)

■短大建築コースの人事異動

・平成 9 年 4 月より、羽入敏樹助手が新たに着任した。

・非常勤講師の先生方については、次のように交代となった。

() 内は担当科目。敬称略。

〈新任〉浜島一成(建築史Ⅰ)

熊倉洋介(建築設計製図Ⅰ)

〈退任〉内山 哲(建築史Ⅰ)

松本 清(建築設計製図Ⅱ, Ⅲ)

■ながい間、応用力学、土質・基礎工学を担当された榎並昭教授がさる 1 月 10 日に定年で退職、教授会の推薦により 1 月 16 日付けで日本大学名誉教授の称号が授与された。

■3 月 25 日にめでたく卒業した学生数はそれぞれ次の通りである。

建築学科

(建築コース, 企画経営コース) 308 名

短期大学部建設学科建築コース 103 名

大学院建築学専攻

博士前期(修士)課程 57 名

博士後期課程 1 名

同 不動産専攻

博士前期(修士)課程 15 名

博士後期課程 1 名

■独身貴族の特権をほしきままにして他からうらやましがられていた蜂巢浩生助手が、さる 3 月 15 日(友引)に吉田あきら教授夫妻の媒酌により山の上ホテルで人前挙式。教室全員から祝福を受けた。

■新田収氏と野村敬教授連名の原著論文「重症心身障害成人に対する環境整備の類型化」が日本建築学会計画系論文集 No.492 (1997.2) に掲載された。

●駿建目次

(1997.4 Vol.25 No.1 通巻 97 号)

建築学科履修要項	2	平成 8 年度建築学科就職状況	16
短期大学部建築コース履修要項	8	平成 8 年度修了生・卒業生各賞受賞者一覧	21
専門科目使用教科書並びに参考書	10	卒業生就職先・研究課題一覧	22
私と作品	14	教室ぷろむなード	36

『駿建』 発行者・木村 翔：千代田区神田駿河台 1-8 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724

■平成 9 年度編集委員：半貫敏夫・井上勝夫・宇杉和夫・蜂巢浩生・田所辰之助

■印刷：奥村印刷(株)